

平成 28 年度  
社会福祉法人 三育ライフ  
＜東京事業所＞  
事業報告書



- 特別養護老人ホーム シャローム東久留米  
203-0023 東久留米市南沢 5-18-36 (事業者番号: 1374800066)  
TEL: 042-467-1561 FAX: 042-467-3040
- 高齢者在宅サービスセンター シャローム南沢  
203-0023 東久留米市南沢 5-18-36 (事業者番号: 1374800330)  
TEL: 042-467-1648 FAX: 042-477-2080 (居宅支援: 1374800132)
- 東久留米市幸町デイサービスセンター  
203-0052 東久留米市幸町 1-19-5 (事業者番号: 1374800827)  
TEL: 042-470-8187 FAX: 042-470-8188
- 東久留米市中部地域包括支援センター  
203-0052 東久留米市幸町 1-19-5 (事業者番号: 1304800038)  
TEL: 042-470-8186 FAX: 042-470-8188
- 認知症対応型共同生活介護事業 グループホーム白山  
203-0032 東久留米市滝山 7-22-11 (事業者番号: 1374800512)  
TEL: 042-470-4630 FAX: 042-470-4830
- 認知症対応型共同生活介護事業 シャローム本天沼  
167-0031 杉並区本天沼 2-36-17 (事業者番号: 1391500145)  
TEL: 03-3395-6333 FAX: 03-3395-6331
- 杉並区立重症心身障害児通所施設わかば  
167-0032 杉並区天沼 3-15-20 1F (事業所番号: 135150515)  
TEL: 03-5347-0550 FAX: 03-5347-0551

平成 28 年度  
社会福祉法人 三育ライフ  
東京事業所

事業報告書

《 目 次 》

平成 28 年度 社会福祉法人三育ライフ 理事長報告 .....	1
【法人本部報告】 .....	2

【東京事業所】

東京事業所 施設長概要報告 .....	3
---------------------	---

特別養護老人ホーム シャローム東久留米（介護老人福祉施設事業・短期入所生活介護事業）

【生活介護課】 .....	5
【生活相談課】 .....	10
【栄 養 課】 .....	16
【看 護 課】 .....	20
【管 理 課】 .....	25
【職員の状況、防災訓練等】 .....	29
【特養第三者評価】 .....	30
【チャプレン】 .....	31

高齢者在宅サービスセンター（通所事業・居宅支援事業・訪問介護事業）

【在宅福祉課】（シャローム南沢／通所介護業） .....	32
【東久留米市幸町デイサービスセンター】（通所介護事業） .....	34
【居宅介護支援課】（シャローム南沢／居宅介護支援事業） .....	36
【訪問介護課】（シャローム南沢／訪問介護事業） .....	39

シャローム本天沼（認知症対応型共同生活介護事業） .....	42
--------------------------------	----

グループホーム白山（認知症対応型共同生活介護事業） .....	46
---------------------------------	----

東久留米市中地域包括支援センター .....	49
------------------------	----

杉並区立重症心身障害児通所施設わかば .....	55
--------------------------	----

< 資 料 >

職員研修参加状況 .....	58
施設内研修会（職員会） .....	59

## 三育ライフ 平成28年度事業報告あいさつ

私たち三育ライフの使命は地域社会における社会福祉の推進と向上と充実です。当法人の理念は、「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕えることによって、神の愛の実現に奉仕する」ですが、今年度、この理念を踏まえた福祉サービスの提供を通して、使命達成のために職員一丸となって研鑽いたしました。

東京事業所シャローム東久留米は開設25年、千葉事業所シャローム若葉は開設23年が経過しますが、それぞれの事業が支えられていることはひとえに多くの関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝する次第です。

日本は超高齢社会を迎え、高齢福祉事業の必要性は年ごとにその緊急性と重要性を増しています。今年度は社会福祉法人改革への取組と新しい総合事業の準備をしつつ、関係者の皆様のご期待と信頼に応えることができるように、以下の点に力を入れて事業を運営いたしました。

ひとつは接遇の改善を基本としたサービスの質の向上です。福祉的多様なニーズに対し、より良いサービスの提供のために、個々の職員の意識のみならず、組織全体の意識の向上を目指しました。そのために、計画的な職員の研修を、東京事業所と千葉事業所の連携の中で継続し、相互に学び合うことで業務に繋げることができるように努めました。また、やりがいのある職場環境を整えることで人材の流出を留めると共に、新卒者を始め、新しい人材の採用のために関係者への働きかけに務めました。

二つ目は、業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上を目指しました。そのために職員間のコミュニケーションを大切に、IT化を進めることで、意思疎通の迅速化と情報の共有化を図りました。また、1階のトイレを浴室に改修したことで利用者の満足度の向上につなげることができたのではないかと思います。

三つ目は、地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実を図ることで、地域福祉の拠点となることを目指しました。ボランティアや中高生の職場体験の受け入れ、大学生の実習の受け入れのみならず、災害時の対応などを視野に入れた関係各所と連携する、開かれた法人としての使命と責任を果したのではと自負しています。

四つ目は、法人本部機能の向上と健全運営です。東京事業所、千葉事業所との定期的協議を重ね、各事業所の経営、財務状況を踏まえ、法人全体の事業計画を遂行いたしました。法人の理念に基づいた、法人としての方向性を繰り返し確認し、現場の対応力を研鑽し合うことができたことは感謝でした。

更に、改善、対応すべき課題点があることを自覚し、一層研鑽努力し、無くてならない法人として地域社会に貢献できればと願っています。

以上、昨年度の実業報告とします。

## 平成28年度、理事会・評議員会、法人経営会議等の報告

- 4/19 三法人会議  
 5/18 千葉事業所話し合い  
 5/27 理事会・評議員会  
     ・平成27年度 事業報告  
                 決算報告 他  
 6/27 三法人合同研究発表会  
 7/8 法人経営会議  
 8/25 理事会  
 11/16 三法人会議  
 12/15 理事会・評議員会  
 2/17 法人経営会議  
 3/27 理事会・評議員会  
     ・平成29年度 事業計画  
     ・平成28年度 最終補正予算  
     ・平成29年度 当初予算 他

## \* 法人経営会議

メンバー

法人理事長	東海林 正樹
千葉事業所 施設長	高幣 義嗣
千葉事業所 財務課長	山本 一
千葉事業所 総務課長	永島 慎志
千葉市あんしんケアセンター 桜木 センター長	赤間 美恵子
東京事業所 施設長	我謝 悟
東京事業所 事務長	清水 浩二

主旨

- 東京事業所、千葉事業所との定期的協議
- ・各事業所の経営、財務状況を踏まえ、法人全体の課題や各事業所の課題を協議する
  - ・理事会に向けての議案の確認と調整など
- 三法人会議等
- ・横須賀、横浜の姉妹法人との話し合い・情報交換

今年度は、社会福祉法人改革への取組と、新しい総合事業の準備の年であった。制度改正の詳細がなかなか出てこない中で、東社協の高齢者協議会、ブロック会、市内施設連絡会、姉妹法人との情報交換など様々な連携で、改正に向けて準備を進めることができた。新しい総合事業についても、保険者の方針をうけて、協議、検討しなければならないことが多く、スムーズに進めることが難しかった。

社会貢献についても、具体的な事業を構築するまでには至らず、今後、地域包括・生活支援コーディネーターとの協働でこの地域でできることから進めていきたい。人材対策については、欠員の補充が十分できず、スタッフには大変厳しい状況での勤務となってしまった。その反省も含めて、系列の高校との連携、養成校との情報交換などを実施し少しずつ進めることができ、新規採用につながることもできた。外国人雇用については、EPAにエントリーし、2名のマッチングができた。29年度の受け入れに向けて準備を進めているところである。

東京事業所として各部署の連携はある程度できているが、全体としてよりスムーズな連携と協力が必要であると痛感した一年であった。それぞれの事業の課題に向き合うだけでなく、利用者やご家族が望む在宅から入所へという流れがもっとスムーズに行くように工夫したい。

チャプレンの働きについても、各事業を知るということが中心の一年となり、本格的な働きは次年度からとなってしまった。

それでも、今年度も各部署全職員が全力で、重度化の対応や稼働率の向上、加算取得、接遇の向上などについて懸命に努力してくれたことに感謝したい。

### 1. サービスの質の向上について

接遇に関しては、継続課題であった。個々の職員の意識の向上はみられているが、組織全体としてはまだまだ力を入れていくことが必要であると感じている。

研修については、各課長が中心に担当となり職員会で講師を務めることで、リーダー層のレベルアップがみられ、内部の人材育成につながる研修ができた。

### 2. 業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上

職員間のコミュニケーションを大切にするという目標については、スタッフが組織の課題などにも意見を言える機会を多く持つように個別に意見を聞くなど行ってきた。まだまだ、年度末の意思確認のころに偏ってしまい、通年で自由に話を聞ける機会を作っていきたい。

各部署で、記録について検討を進めた。特養においては介護記録のIT化を実施することができた。PCを増やし、介護記録ソフトを活用しやすくするなどハード面の充実と共に、現場スタッフとの協議なども行い業務の省力化にもつながったと思われる。

1階のトイレを改修して、浴室を整備したことは、重度の利用者の負担を軽くし、感染症が発症しても入浴を全面中止にせず対応できるようになったことは利用者の満足の向上につながったと思われる。

### 3. 地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実について

地域の自主グループへの応援については、今年度も近隣のサロンへの協力を続けていくことができた。地域包括の窓口が本部に開設されたことで、この近隣の方々への利便性は向上したと思

われる。今後の展開を検討していく必要がある。

新しい総合事業については、年度末になって準備が本格化してきたが、事業について行政の進めることについてしっかりと検討し、必要に応じて取り組んでいくこととした。

#### 4. 法人・施設の健全運営について

杉並区からの委託事業に取り組む中で、東京衛生病院との連携がより強まってきた。医師や歯科医師、訪問看護などとの協働が、杉並区からも評価された。

また、今年度も、千葉事業所との法人経営会議を開催し、相互の情報共有を図ることができた。千葉事業所とも連絡を密にし、相互の状況を確認し、課題についても検討しあうことができ、法人としての協力体制が確立できてきた。

平成28年度事業報告		生活介護課		課長：宮下 賢二	
部門職員数（平成29年3月31日 現在）					
課長	1名	主任	3名	副主任	3名
				常勤	17名
				非常勤	38名
				合計	24名
				総合計	62名

今年度も接遇の向上を基本に『お互いを尊敬し律し合える職場づくり』と『組織人としての成長』を目標として取り組んできた。しかし、人材不足が慢性的に継続し、人材確保がままならなかったため、理想のケア体制に至ることはできず、現場スタッフには、かなり負担をさせてしまった。ただ、厳しい人材環境の中、看取りケアの取り組みや稼働率の維持、感染症対策等に懸命に取り組むサービスの質の向上に務め、尊敬し合える職場作りという目標に少しは近づける結果を残せた。

### 平成28年度「事業計画」達成状況

#### 1. 専門的なチームケアの実践を目指す

① 1Fは重介護の利用者対象のフロアであり、全介助の方がほとんどである。経管栄養の方からバルンカテーテル留置者、また、看取りになる対象者が多いのもこのフロアである。

今年度も継続して看取りケアをおこない、最初は看取りケアに対し戸惑っているスタッフも多かったが、現在は落ち着いて対応できるように育ってきている。お別れ会についても、スタッフが中心となり、居室でのお別れ会をして、形式的でなくても心のこもったお見送りができ、家族にも感謝の言葉をいただくことができた。

看取りケアを深めるため、ターミナル委員会での話し合い、フロアスタッフによる振り返りも実施した。次年度も入所者や家族の意向をさらに反映させるため、平穏時からの意向確認やさらなる情報収集を図り、看取りケアだけを意識せず、つねに尊厳を持ったケアを行っていく事が大切であると感じている。

1Fに機械浴を新設し、他フロアでの感染症等による入浴業務の中止がなくなり、定期で安定した入浴が出来たため、皮膚トラブルの減少や褥瘡の予防にも繋がった。

また、褥瘡に関しては、「褥瘡ゼロ」を目標に取り組み、年度内の数カ月はゼロを達成できた。

移乗時の介護にスライドボードを使用し、介護する側も介護を受ける側も負担を軽減することができた。今後も移乗時の介護に継続してスライドボードやスライディングシート等を使用していきたい。

② 2Fは、軽介護フロアとなっているが、介護保険改定により重度化が進んできている。更に、ショートステイを含め満床で36名と一番利用者が多いフロアなため、スタッフの負担感も大きくなってきている。その中でもサービスの低下を防ぐため、アクティビティプログラムでは、毎日の体操プログラムを継続。企画も外出や家庭菜園、食事作り、作品づくりカラオケなどによる楽しみながらの嚥下機能低下訓練など利用者自身が主体となって実施するものを実施。ショートステイについては、利用者満足度と感染症対策のため、『ひだまり』をショートステイ利用者専用のデイルームの設置を継続した。フロアを分割するため人員の確保や業務分担などの課題が残った。

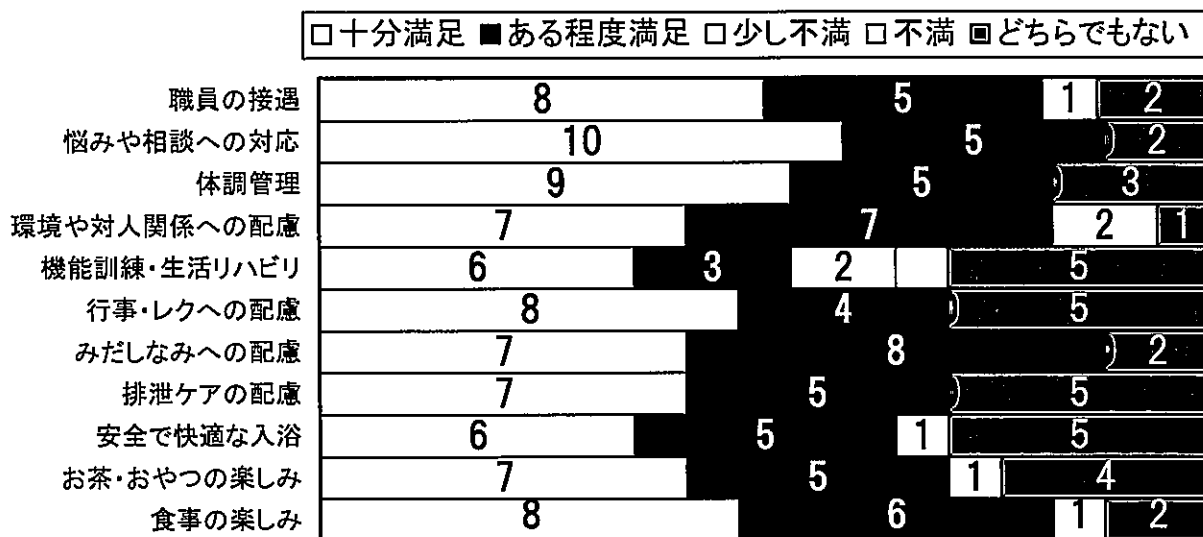
③3F 認知症フロアでは、専門的ケアの実践として、ケアの質の向上に取り組んだ。月末の利用者懇談会の実施、業務の見直し(遅滞勤務への取り組み、マニュアル作成、勤務時間の変更)、排泄の見直し(その人にあったオムツの形態や交換時間への変更)、状態にあった食事形態や食器に変更、季節を取り入れた行事企画、家族を迎えた茶話会を実施した。季節の行事の一つとして、前年度も好評であったさんま焼きを屋外でおこなった。後日の第3者評価委員に利用者自ら報告し、委員から高い評価を得た。

次に、感染症対策として、標準予防策の徹底と感染症に対する更なる理解を進めてきた。その都度感染症会議を開き、フロアミーティングでも振り返りの機会を持つことで、感染症対策に努力した。

④利用者満足度調査については、居室担当者を中心に、3月に実施した。アンケート対象(ご利用者またはご家族)より回答を頂き、回収率87.59%であった。

1階フロアの満足度調査については、『満足』、『ある程度満足』が全体の77%と高評価を頂いた。特に排泄ケアについての自由記述では、『前にいた所は嫌なことや怖いことがあったけど、今はないから安心』、職員の接遇については、『職員の方が明るい。仕事も一生懸命されている。』『職員の方がよく声をかけてくれる』『職員の数が少ない』『家族にも気軽に声を掛けてくださる』などがあり、重度フロアであるからこそ、日頃のコミュニケーションを大切に対応していた結果が高評価を頂いたので、今後も更なる対応を行っていききたい。

### 1階 満足度調査

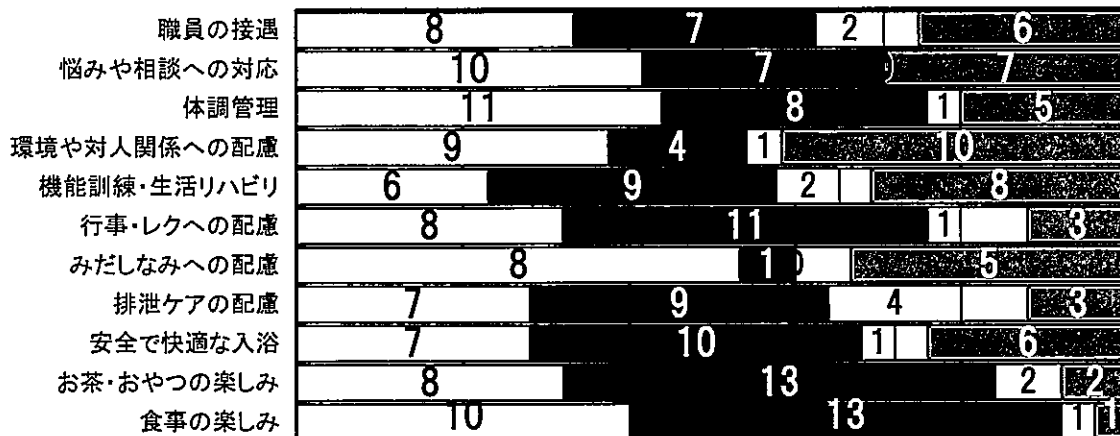


2階フロアの満足度調査については『満足』、『ある程度満足』が全体の63%と評価を頂いた。排泄ケアについては、前年度は『並ばないで行きたい。』『トイレの通り道が狭い』と回答されたが4名いたが、環境整備やショートステイを、ひだまりに移行することにより、食堂を広く使うことが可能になり前年度の様に環境についての意見はなかった。レクリエーションについては、『外出したい』という回答が2名いて、今後ご家族と一緒に参加できるプログラムなどの検討が必要である。



## 2階 満足度調査

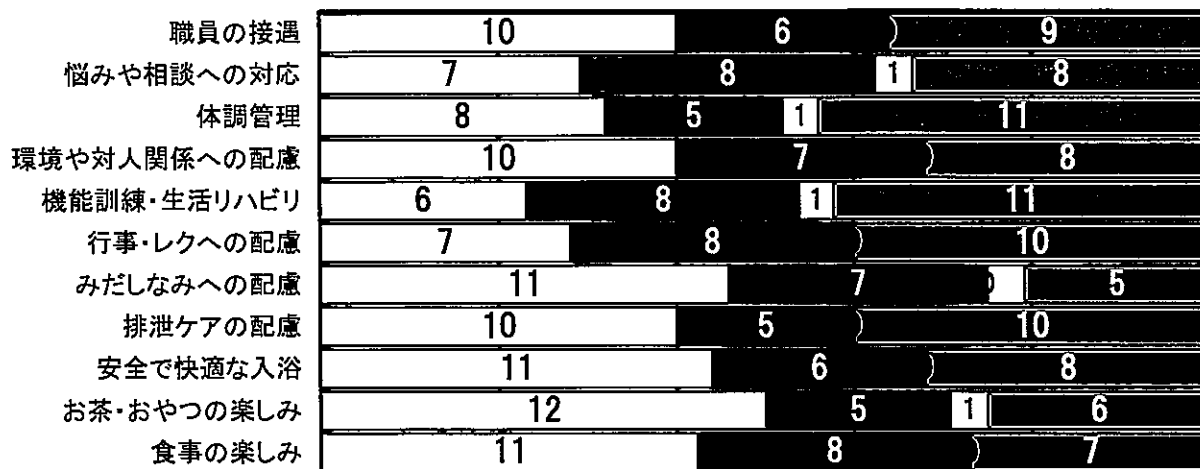
□十分満足 ■ある程度満足 □少し不満 □不満 □どちらでもない



3階フロアの満足度調査については、『満足』、『ある程度満足』が全体の43%となった。この結果については、認知症フロアであるが、ご本人にお伺いしたため、『分からない・どちらでもよい』と回答した方が、全体の35%いたため、今後調査内容の検討が必要である。

## 3階 満足度調査

□十分満足 ■ある程度満足 □少し不満 □不満 □どちらでもない



今年度も満足度調査を行うことができ、それによりご利用者の声が直に聞くことができ、又、前年度とも比較することができました。今後のミーティングや研修等に活かし、ご利用者の生活の質がより一層向上できるよう、スタッフ全体で取り組んでいきたい。

#### ⑤チームアプローチケア実践

チームアプローチケアをより効果的にするために、他課と連携を密にして、様々な問題に取り組んだ。まず、経口維持については、訪問歯科医師の指導の下、歯科衛生士や、看護課、栄養課、相談課とも協力して、経口摂取の維持に取り組み、経口維持加算にもつなげる事ができた。次に感染症に関しては、「発生させない・広げない・もらわない」三原則と標準予防策の徹底、さらに「職員の感染症の持ち込みはゼロにしよう！」を施設の共同テーマとして取り組んだ。その成果もあり、利用者の感染性胃腸炎等の感染者はゼロという成果が得られた。昨年度に、循環型機械浴槽の水質検査では、レジオネラ属菌が検出され、急遽、洗浄と再水質検査を行った。保健所の指示も仰ぎながら、現在も定期的な機械浴槽の洗浄、消毒と水質検査を継続しておこなっている。

#### ⑥事故報告書と状況報告書（ヒヤリハット）について・・・

今年度も状況報告書（ヒヤリハット）の件数には拘らず少しの変化でも報告するスタイルを継続した。書式に関しては、ほのぼののシステムで記録を入力するようになり、記録から帳票類の出力がリンクして行えるため、新書式の検討も同時に行ってきた。事故報告書についてもシステムから出力できるため次年度には新書式に移行できるように計画している。

## 2. 人材育成

### 1) 個別の研修計画を実施し専門性を高める

- ・「自己目標設定シート」と「関わりチェックシート」をもとに各人で年間の自己目標を立て、年3回（5月、10月、3月）、主任と話し合いの機会を持ち、自己目標の達成に向けた相談の他、「関わりチェックシート」をもとに接遇の振り返りを実施した。日々のケアの中での技術向上、資格取得、課内勉強会の活用等、一人一人の自己研鑽の様子に触れることや振り返りの過程で意識を共有する機会ともなった。「自己目標設定シート」をもとに「個別研修計画表」の作成を実施した。

### 2) 課内の内部研修の確立

- ・新人職員については「新人研修計画」、「新人研修ノート」をもとに研修計画を立案し実施した。課内オリエンテーション（課内規定の確認）等実施でき、課内委員会を中心に勉強会の企画を行うことができた。

### 3) 研究発表

- ・研究発表については、『アクティブ福祉 in 東京 '16』で1階フロアの『腰痛予防の取り組みから見えてきたもの』が選出され発表、施設内研究発表会では、2階フロアの『充実したショートステイを目指して』を発表し、好評を得た。2階の発表については、新年度の『アクティブ福祉 in 東京 '17』に応募予定。
- ・課内勉強会については、感染症対応（複数回）、新人主催の拘束廃止の勉強会等を各課長、外部講師の協力を仰ぎながら実施できた。

### 3. 地域とのつながり、社会貢献

- ・平成 28 年度も、南町小学校の施設交流や南町小学校の総合的な学習の時間に参加し、地域の児童と施設利用者の交流を行った。また、交流を行った小学生達は、11月のシャローム祭でボランティアとして利用者と交流を持った。

### 4. 職場環境の改善

- ・1階浴室の設置、機械浴1台を設置することにより他のフロアの感染症等に影響なく入浴が行えるようになった。
- ・介護記録を、ほのぼのシステムを使用し、パソコンでのデータ管理に変更した。導入当初は、慣れないパソコン入力に戸惑う職員もいましたが、現時点では操作にも慣れ定着し、他の帳票等にリンクするなど業務の効率化を図っている。

平成28年度事業報告	生活相談課	課長：鈴木 さやか
------------	-------	-----------

部門職員数（平成29年度3月31日 現在）

課長 1名	主任 0名	副主任 1名	常勤3名	非常勤1名	合計 4名
-------	-------	--------	------	-------	-------

平成27年度の介護報酬改定の1年を経過し、特別養護老人ホーム（以下、特養）は健全な経営と地域貢献が求められた。相談課としては、各課、関連期間と連携し、健全な経営と質の高いサービスを提供できるように業務改善、事業の再構築を行い、計画の達成に向けて課内のスタッフと協力してきた。

## 平成28年度「事業計画」達成状況

### 1. 円滑なサービス利用の支援

#### 1) 入院者・退院者の支援

今年度は入院者53名（入院先で転院になった4名を含む）（昨年度は入院者47名）、そのうち退院者は49名（昨年度は32名）、入院先で死亡・転院し利用が終了になった方6名（12名）となっている。全体的に入退院の数が昨年度に比べ多くなっているのは、今年度は要介護4・5が全体の80%を超え、より重度化したため、疾病にもかかりやすい利用者が増えたためと考えられる。そのような状況の中で、相談課としては、入退院の手続きの相談はもとより、入院先でご逝去された方のその後の対応の相談、または施設へ戻る事が困難な病状の利用者への相談などの応じ、ご利用者の状態に応じた支援をすることができた。

#### 2) 退所者・入所者の支援

昨年度に続き、入所対象者が原則要介護3以上となったことを踏まえ、特養が重度者等の積極的な受け入れを行うことが役割となった。当施設では、昨年度の退所者20名に比べると7名の減少の13名が退所した。これは、入院者の増加はあったが、入院先で亡くなった方の減少や各課の連携による疾病の早期発見などで、退所者を減らすことが出来たからではないであろうか。しかし、重度化により、入院日数は1072日と前年度の843日に比べ増大しているため、稼働率は前年度の96.5%から95.9%となっている。しかし、空床期間（退所者から新規入所者への移行期間）が前年度平均13.8日から今年度は平均15.35日と前年度と変わりなく対応出来たことで、稼働率の減少を抑えることができたのではないかと思う。また、昨年度に続き、相談課としても、特養の重度化を予測し、①待機者名簿の調査を待機期間ごとに分けて実施、②待機者の候補者面接を定期的実施、③入退所委員会の迅速な実施なども行うことが出来た。

#### 3) ご家族への対応

昨年度は入所のご家族の相談・苦情対応としては、2件上がり、1件は病院の入院時の多床室希望のご家族への対応で、もう1件は、嘱託医の治療方針について拒否された身体的虐待を疑うケースがあった。今年度はこの2件の対応を踏まえ、契約書、入所時の担当者会議、契約時の説明の内容の見直しを行うことにより、ご家族への理解へ繋げることが出来た。

近年は、ご家族の治療方針や延命のことなどについての相談が増えているため、嘱託医・看護課の協力のもと医師との面談の提案などを行い開催した。今後もますますご家族の意向に寄り添った対応が必要とされているため、施設内・外での会議の参加件数が増えている。

・入所者・待機者の入退所状況および相談員の活動状況

列 1	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入院者	0	8	7	6	4	4	3	4	5	2	3	7	53
退院者	2	2	11	3	8	0	6	2	7	2	2	4	49
入院先でご逝去または転院し終了の方	1	1	0	0		0	1	0	1	1	1	0	7
入院先で転院になった方	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	4
看取りの方	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	4
退所者	2	1	1	0	1	1	1	0	3	2	1	0	13
入所者	3	0	2	0	0	2	0	1	1	4	0	1	12
入所延べ日数	2,400	2,460	2,326	2,436	2,414	2,358	2,421	2,361	2,400	2,424	2,255	2,447	28,702
稼働率	98.0	97.0	94.5	95.8	95.0	95.9	95.2	96.0	94.4	95.4	98.2	96.3	95.9
相談員が緊急出動した回数	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
待機者面接に行った人数	0	1	0	0	1	0	0	0	3	1	1	0	7
入退所委員会	2	2	1	1	1	1	0	0	1	2	0	0	11

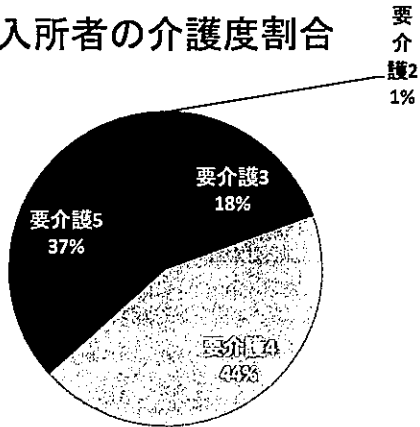
・特養入退所状況(平成 28 年 4 月～29 年 3 月)

項目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	性別	男	1	0	1	0	0	2	0	0	0	3	0	0	7
		女	2	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	7
	前の居所	病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		老健	3	0	2	0	0	2	0	1	1	4	0	1	14
		自宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		お泊まりデイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	3	0	2	0	0	2	0	1	1	4	0	1	14
退所	性別	男	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
		女	1	1	0	0	0	1	1	0	3	1	1	0	9
	理由	入院	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4
		死亡	0	1	1	0	1	1	0	0	3	1	0	0	8
		その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	死亡内訳	施設	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	5
		病院	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
計	2	1	1	0	1	1	1	0	3	2	1	0	13		

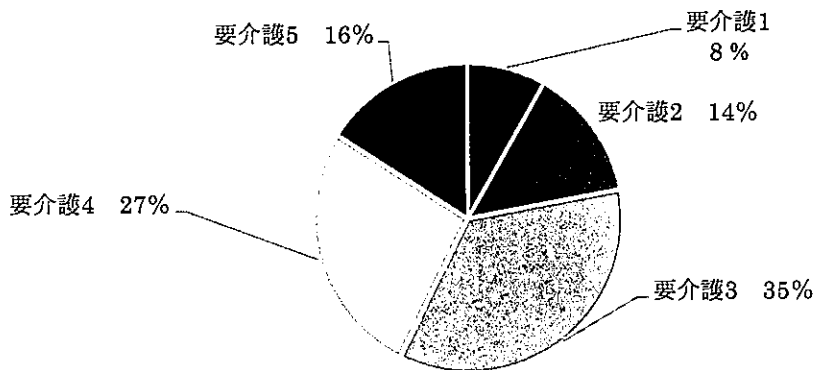
・退所日から入所日までの空床期間

空床	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	平均
H25	69	22	18	14	21	27	47	11	14											27.0日
H26	8	10	14	12	17	39	41	21	15	28	62	59	50	47	20	9				28.3日
H27	21	8	8	9	18	9	17	12	7	8	15	23	10	15	16	25	13	14	15	13.8日
H28	14	11	12	13	13	11	16	26	12	16	33	15	10	13						15.3日

入所者の介護度割合

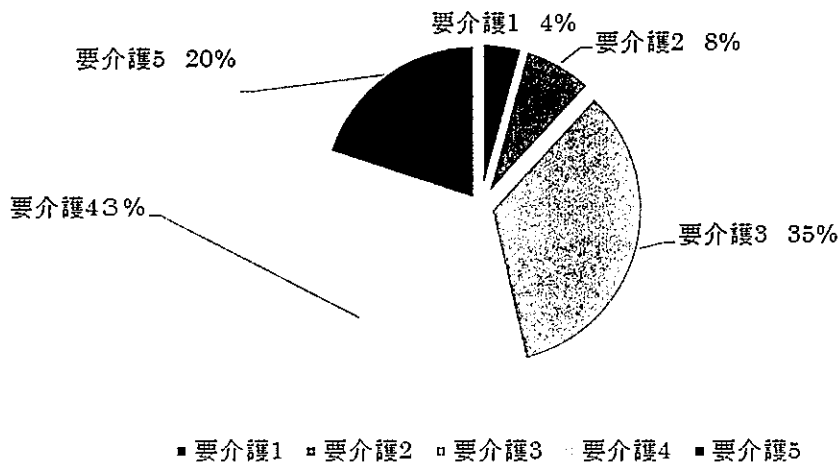


東久留米市待機者割合



■ 要介護1 ■ 要介護2 □ 要介護3 ▨ 要介護4 ■ 要介護5

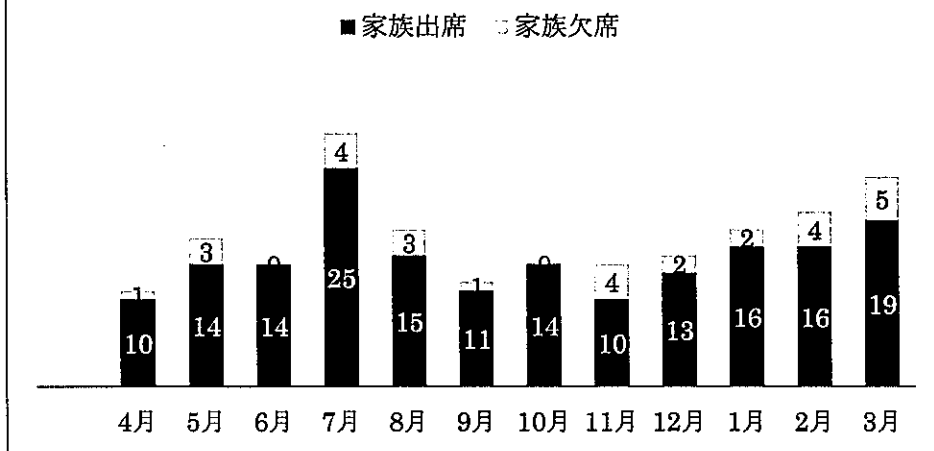
## 西東京市待機者割合



### 4) サービス担当者会議の実施

今年度も半年毎に担当者会議を実施し、ご家族へ日頃の情報共有やご家族の希望等を伺う会議を 154 回開催した。また、要介護認定の区分変更時や退院時、看取り開始時などの臨時的担当者会議を前年度は 49 回であったが、54 回と実施回数が増えている。これは、入退院の増加によるものと考えられる。

## サービス担当者会議状況



## 5) ショートステイの利用状況

ショートステイは在宅で生活しているご利用者へ宿泊を支援するサービスであるが、前年度は平均稼働率 95.5%であったが、今年度は+6.5%の 102.0%であった。昨年度は感染症対応が必要な 1 月から 3 月にかけては 74.8%と減少したが、今年度は、特養のインフルエンザ B 型判明の発症者がショートフロアでは発症しなかったため、稼働率が減少しなかったことが結果となったと考えられる。今後も、特養と連携をしながらサービスの提供を行っていききたいと思う。

### ・ショートステイ利用状況(平成 28 月～29 年 3 月の稼働率・介護度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所実人数	40	41	38	40	39	34	41	35	36	35	35	37	451
入所延人数	63	68	64	67	67	62	66	56	51	59	59	67	749
入所延日数	294	328	301	311	321	305	322	303	295	319	303	321	3723
キャンセル日数	31	23	25	40	62	52	41	52	65	20	26	37	474
追加利用日数	57	51	35	33	39	27	38	39	30	34	27	32	442
新規利用者	1	2	1	3	2	1	4	2	0	0	0	1	17
利用終了者	1	3	1	2	3	0	4	3	0	0	3	1	21
稼働率	98.0	105.8	100.3	100.3	103.5	101.7	103.9	101.0	102.6	102.9	108.2	103.5	102.0

## 2. 地域・関係機関との連携

平成 28 年度も、南町小学校の施設交流(平成 28 年 6 月 22 日)や地域の児童と施設利用者の交流を行った。また、ボランティアコーディネーターとボランティア委員会が中心となり、ホーム喫茶の内容の改定や今までの内容の見直しやマニュアル作りなどを行い、ボランティアの方々との連携をさらに強化できた。

	活動内容	延人数	備考
1	ドライヤーかけ	287	
2	ホーム喫茶	74	
3	園芸・植木関係	95	
4	傾聴	60	傾聴ボランティア「みみ」他
5	マッサージ	20	
6	食事介助	26	
7	クラブ活動	216	茶道、書道、華道、フラワーセブーン、朗読、煎茶道、健康麻雀、聖書の話
8	音楽レク等	232	音楽、歌レク、シャンソン、フラダンス、大正琴、ウクレレ、オカリナ、ギター
9	シャローム祭	31	南町小学校・こどもセンターひばり・ご利用者ご家族等
10	出張販売・理美容等		ノアノア、(株)ティチャム、レオン、番場イツ子、シルバーサポート、とみんのカネ、他
11	集会・慰問交流・コンサート等 (10・11延人数概算: 404名)		久留米老人クラブ連合会・東京三育小学校・紫乃介会・津軽スコップ三味線 わらべ南保育園・下里しおん保育園・南町小学校・自由学園・JAZZ 東久留米総合高校ボランティア部・なんくるエイサー・エイサーきらく会 久留米教会・似顔絵・マジックみなみ・チャターズ SDA三育関町教会・わいわいクラブ
計		1471	(昨年度1268名、今年度203名増)



### 3. 人材育成

今年度も昨年度に引き続き、介護福祉士、社会福祉士、看護師の実習生の受け入れとともに、東京都新人職員研修などを行い、未来の人材育成を引き続き行うことが出来た。

	学校・団体名	資格等	実人数	延人数
1	早稲田速記医療福祉専門学校	介護福祉士	1	25
2	秋草学園福祉教育専門学校	介護福祉士	1	24
3	東京国際福祉専門学校	介護福祉士	1	24
4	日本社会事業大学	介護福祉士	1	16
5	武蔵野大学	社会福祉士	1	23
6	ルーテル学院大学	社会福祉士	1	8
7	日本社会事業大学	社会福祉士	2	39
8	三育学院大学	看護師	49	249
計			57	408

平成 28 年度事業報告		栄 養 課			課長 矢 口 春 江				
部門職員数 (平成 29 年度 3 月 3 1 日 現在)									
課長	1 名	主任	0 名	副主任	0 名	常勤	1 名	合計	1 名
						非常勤	0 名	総合計	1 名

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 委託会社との連携と接遇

食中毒や感染症の発症防止の為、調理や洗浄作業の衛生管理の徹底を行ってきた。そのうえで毎日の食事の満足度は高いと感じている。又、行事食やデイサービスの誕生会食提供には委託会社と相互に円滑な連携を図る事ができ、喫食者から好評を得る事が出来た。

生野菜の使用は食材費高騰の為、一部の食材に限られた。

給食内容の改善と共に「富士産業株式会社」とは接遇マナーの向上とルール作りに付いて常に話し合い委託会社の接遇マニュアルに基づきその場に応じた言葉使いや態度の見直しも行ってきた。

### 2. ムース食対象者は数人ではあるが継続して提供している。

ショート利用者の必要から始まった「軟飯」は「粥食」に抵抗がある御利用者からの希望が多く、特養でも増加傾向にある。主食の食形態の項目として今後は取り入れていく。

ハーフ食該当者は特養で 21 名、デイサービス、ショート利用者も増えている。栄養価の高い食材に食事の半量を置きかえる事で低栄養を防ぎ、食欲を取り戻す呼び水として大きく役立っている。食事時間の選択については、受診の都合や体調に合わせて随時食事の時間や場所を変更した。又受診が長引くなど規定の時間内に間に合わない時は同等の食事を再度提供した。

### 3. 栄養ケアマネジメント

「ほのぼの」の実施記録の項目を利用する事で食事形態の変更や栄養状態の情報を簡単に共有する事が出来ている。

褥瘡の治癒、体重の減少阻止、生活の質の向上を目指し、栄養補給だけでなく、介護課、看護課を中心に多職種での協働態勢や協同意識を持つ事ができている。

### 4. 介護課・在宅課などの「食」に関わる行事企画などに栄養課として関わり、食材や調理器具の調達、ご利用者との協同作業や調理など出来る限り協力した。

### 5. 厨房内の整備、及び備品購入

- ・今年度の予算の通り厨房内の検食保存用冷凍庫、業務用電子レンジ、ガス自動炊飯器の入れ替えを行った。事業計画には無かったが職員用のマイコンスープジャー、在宅課用飯保温ジャーも破損により買い替えを行った。

### 6. 研修活動

- ・保健所 栄養管理講習会 「冬の食中毒防止と最新の食品衛生情報」  
「事業継続計画（BCP）の策定の仕方第 2 弾」

### 7. 災害時備蓄品は 1 日 200 名を想定し、最低でも 3 日分の備蓄と献立作成を行っている。

普通食が食べられない方が多いので粥やミキサー食、流動食を基本に備蓄しており、賞味期限前に日頃の給食献立に調理を工夫しながら取り入れている。

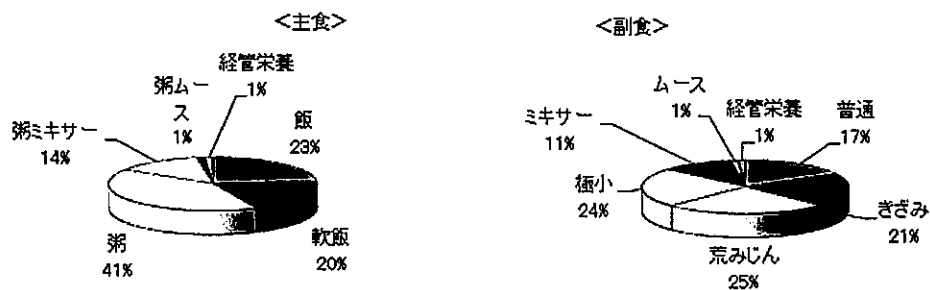
### 8. 東京都の委託事業である地域住民の食生活や栄養改善の知識普及を行う為に「栄養展」をイオンホールに於いて 11 月と 1 月の 2 回開催し多摩小平地区給食研究会会員として参加、協力した。又、地域の体操教室に出向き、栄養や衛生に付いて短時間の講習を行った。

## 2. 部門業務資料

### (1) 利用者の状況にあった適切な食事の提供。

- ア 主食・・・飯（おにぎり）・軟飯・粥・粥ミキサー ・粥ムース ・パン
- イ 副食・・・普通食 一般に食されているより軟らかく小さめ  
 きざみ食 ティスプーンに乗る大きさ  
 荒みじん食 食材が分かる程度に細かく刻む  
 極きざみ食 カッターにかけ繊維を数ミリに砕く  
 ミキサー食 ミキサーにかけなめらかな口当りに  
 ムース食 なめらかだが形があり、舌で潰せる硬さ（朝食は除く）

### 食事形態の割合（平成 29 年 3 月 31 日現在）



ウ 禁食・嫌食に対し、個人的に食材の代替食対応多数。

エ 嗜好の把握及び献立への反映

[把握方法]	嗜好調査	随時	方法／	アンケート・個別聞き取り
残食調査	毎回	方法／	品目ごとの残食割合の調査	
喫食量の把握	毎食毎に「摂食記録表」に記入。			
食事懇談会	年12回	給食委員会として		
嗜好カルテ	有り			

[反映状況] 代替食・複数献立

オ 適温への配慮 保温食器・厨房に隣接した食堂・直前盛り付け・時間差をつけた配膳  
 保温庫、コンベクション、冷蔵庫の活用

カ 喫食環境 利用者の好みの音楽を流す。食堂から見えるテラスで植物を育てるなど心地よい環境を演出する工夫をしている。

キ 献立内容に合った食器の配慮

保温食器使用以外の料理についてはメニューに添った食器選択を毎回行っている。

ク 食事の為の自助具の種類

自助食器5種類、自助スプーン、ホーク、滑り止めマット、片手マグカップ、  
 取り分け用小茶碗 その他障害に応じた食器・器具

### (2) 療養食・経口維持

療養食の提供 食事箋 有り 医師の指示 有り

特別食（療養食）の献立表の作成 有り

提供者数 療養食 13名・経口移行食 0名

[療養食の種類／ 糖尿病食・腎臓病食・高脂血症食・心臓疾患]

毎月経口維持会議参加

- (3) 経管栄養 クリニコ C.Z-HIバックタイプ 1名  
 (4) 食事摂取困難者に対する食事介助（嚥下困難者、褥瘡発症者、その他）

嚥下困難者には個々に増粘剤を用いてその利用者の食べ易い濃度に調整してむせや誤嚥が起こらない様、注意して食事介助をしている。介護課で簡単に作れる水分補給用のイオン飲料ゼリーや、飲み込み易いミキサー粥、高カロリーゼリー、高蛋白質粉末などを使用。また褥瘡発症者にはZn,Fe,VA,VCを強化する食品の補給を心掛けている。

- (5) 栄養指導の状況  
 摂食指導  
 ショートステイ利用者、家族、地域住民の食事相談及び指導

- (6) 行事食等の実施状況

行事食

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 4月 お花見弁当         | 10月 お楽しみ食（松茸ご飯・鯖の立田揚げ） |
| 5月 開設記念特別食・子供の日  | 11月 お楽しみ食（にぎり寿司・ケーキ）   |
| 6月 お楽しみ食（鰻ひつまぶし） | 12月 冬至料理・クリスマス料理・年越しそば |
| 7月 七夕行事食・土用の丑の日  | 1月 おせち料理・七草粥           |
| 8月 終戦記念日（すいとん）   | 2月 節分・バレンタイン・お楽しみ食     |
| 9月 防災食・敬老祝い御膳・彼岸 | 3月 ひな祭り御膳 ・ 春の彼岸       |

選択食 麵料理 48回

バイキング なし

外出・出勤 誕生日など介護課で個別に実施

甘酒・餅つき・蕎麦打ち・茶話会などご利用者が参加する介護課・在宅課での食事作りに協力した。

- (7) 食事時間（平成29年3月1日現在）

区分	朝食	昼食	夕食
食事時間	8時00分～8時40分	12時00分～12時40分	18時00分～18時40分
検食時間	7時45分～8時00分	11時45分～12時00分	17時45分～18時00分
検食者（職種）	宿直者	全職種交替	夜勤者

- (8) 栄養量等の状況

基準栄養量は、厚生労働省の定める生活活動強度と年齢別、男女別から割り出した当施設における平均栄養基準量を使用し、本年度は男女平均年齢85歳として算出した。

基準値に満たないカルシウムや食物繊維は付加を行っている。時折ビタミンC、ビタミンB類が基準値を下回る時がある。

- (9) 検査用保存食

保存期間 2週間 保存温度 -20℃以下

食品ごとの分別保存・調理済み食品・原材料・おやつ等 . . . . .有り

1件体当りの保存量 50g

- (10) 調理従事者等の衛生管理（検便）は毎月2回実施

- (11) 食器、食材料の衛生管理  
ア 食器消毒方法 次亜塩素酸ナトリウム及び熱風乾燥保管庫  
イ 衛生管理の自主点検表 有り
- (12) 調理業務の状況 委託 施設単独
- (13) 食中毒及びO157、ノロウイルス予防策  
手指の洗浄消毒の励行（ティペックス A、食品用殺菌アルコール）  
厨房内の清掃と殺菌（紫外線殺菌灯、食品用殺菌アルコール、塩素）  
まな板、包丁等調理器具の洗浄、殺菌（中性洗剤、紫外線殺菌灯、殺菌アルコール、塩素）  
水質管理 （残留塩素の測定）  
調理従事者の検便と健康管理 生野菜、生果物の塩素による浸漬と十分な洗浄  
75℃以上2分以上の十分な加熱調理 食材納品時の温度、品質管理
- (14) 保健所の指導・・・・・・・・今年度は特に指導はなし。

平成28年度事業報告	看護課	課長：武田 忠雄
------------	-----	----------

部門職員数（平成29年度3月31日 現在）

課長 1名	主任 1名	副主任 1名	常勤 2名	合計 5名
			非常勤 6名	総合計 11名

目標としている「知識と技術と人格で織りなす人を癒す芸術の看護」の域にはまだまだ達していないが、常に研鑽を忘れず技術を高め、幅広いスタッフ各世代の知恵と知識を結集し、専門職としてプロ意識を持ち各課をリードして、計画の達成に邁進した。

## 平成28年度「事業計画」達成状況

### 1. 健康管理と保健衛生の強化

訪問診療については、毎週木・金曜日に各内科担当医、月2回の土曜日に精神科医、不定期に皮膚科医、訪問歯科が毎週月曜日の診療が継続された。また、継続して経口維持加算の算定にも関わっていただき、スムーズに算定を実施する事ができた。歯科衛生士の口腔ケアの訪問日も継続でき、充実した体制となった。各医師、歯科医師、歯科衛生士とも連携が密にとれ、様々なことに適切に対応できた。

病院受診件数は昨年度と比べて21件減少、入院件数は昨年度より6件増加し53件となった。これは、嘱託医や各課と連携を密にとることにより、疾患の早期発見・早期対応に努めることで、病院受診までに至らずに対応ができたことが増えたと考える。入院延べ日数においては、入所者の重度化や慢性疾患の末期状態などの重篤な方の増加があり、229日増加した。それに加えて入所者の医療依存度も高くなってきており、状態の変化も激しい為、家族との連絡を密にし、定期受診等はできるだけ家族の協力を得られるようにした。

健康管理では例年通り10月に入所者全員の健康診断を実施した。インフルエンザ予防接種は利用者が11月、職員は11月下旬から12月に実施した。

快食、快眠、快便、快感の生活に向けては、各課と情報を共有し、各担当医とも連携を取りながらベストを目指し対応できたと思う。

機能訓練については、機能訓練指導員が中心となり計画作成をし、個別訓練から集団訓練、車椅子やクッションの選定など関わる事ができた。様々な関わりができたことで、ADLの維持とより安定した生活が送れるようサポートを続けることができた。

### 嘱託医・往診医による回診状況

	内科	精神科	歯科	皮膚科
回数	週2回	月2回	月4~5回	随時
医師名	矢澤(木) 陸川(金)	高野(土)	町田(月)	佐瀬(火)
月平均診療者数	166名	31名	25名	8名

受診状況

<月別件数>

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H26	27	22	23	36	27	28	28	17	29	18	24	21	300
H27	28	14	23	35	33	26	30	17	22	31	24	19	302
H28	15	25	26	22	23	30	16	14	29	25	29	27	281

<診療科別件数>

診療科	内科	外科	泌尿器科	眼科 耳鼻科	整形外科	皮膚科	婦人科	神経科	歯科	精神科	その他	計
件数	97	11	56	14	29	48	1	0	0	1	24	281件

<受診先病院別>

病院名	滝山病院	西東京中央 総合病院	昭和 病院	佐々 病院	多摩北部医 療センター	田無 病院	前田 病院	おだやか CL	その他	計
受診数	141名	38名	40名	6名	4名	2名	12名	11名	80名	334名

<入院件数及び各月の延べ日数>

年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H26 年度	件数	2	3	5	10	5	1	1	4	7	2	5	2	51
	日数	43	45	84	155	167	21	9	23	84	21	101	55	808
H27 年度	件数	2	2	4	8	5	2	1	2	3	8	5	5	47
	日数	22	13	44	150	87	91	59	34	27	153	94	69	843
H28 年度	件数	0	8	7	6	4	4	3	4	5	2	3	7	53
	日数	23	82	118	113	126	79	143	80	111	64	42	91	1072

<入院期間と退院者数>

入院期間	1～15日	16～30日	31～60日	61～90日	91日以上	計
H26年度	27	11	7	1	0	46
H27年度	24	14	5	3	0	46
H28年度	22	16	10	1	0	49

\*注：退院月に参入

<入院時診断名別割合>

診断名	肺炎	心疾患	消化器疾患	泌尿器疾患	骨折	脳疾患	その他	計
入院件数	21名	5名	0名	9名	3名	1名	14名	53名

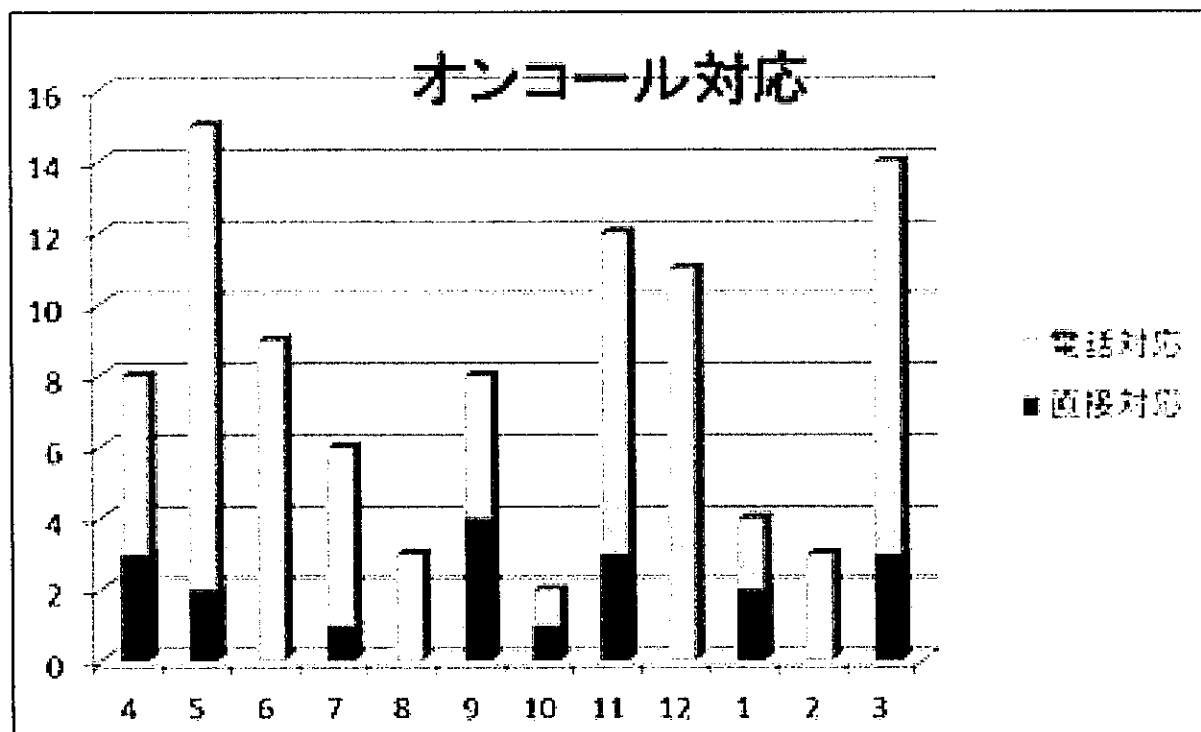
## 2. 緊急時体制の充実と人材育成及び人材確保

オンコール体制については、4名の常勤に加えて、非常勤職員の電話のみのオンコール対応への参加も継続しており、いくらか緩和されてきている。ただ、それでも月に7~8回のオンコール回数については、スタッフから厳しいとの声も聞かれている。

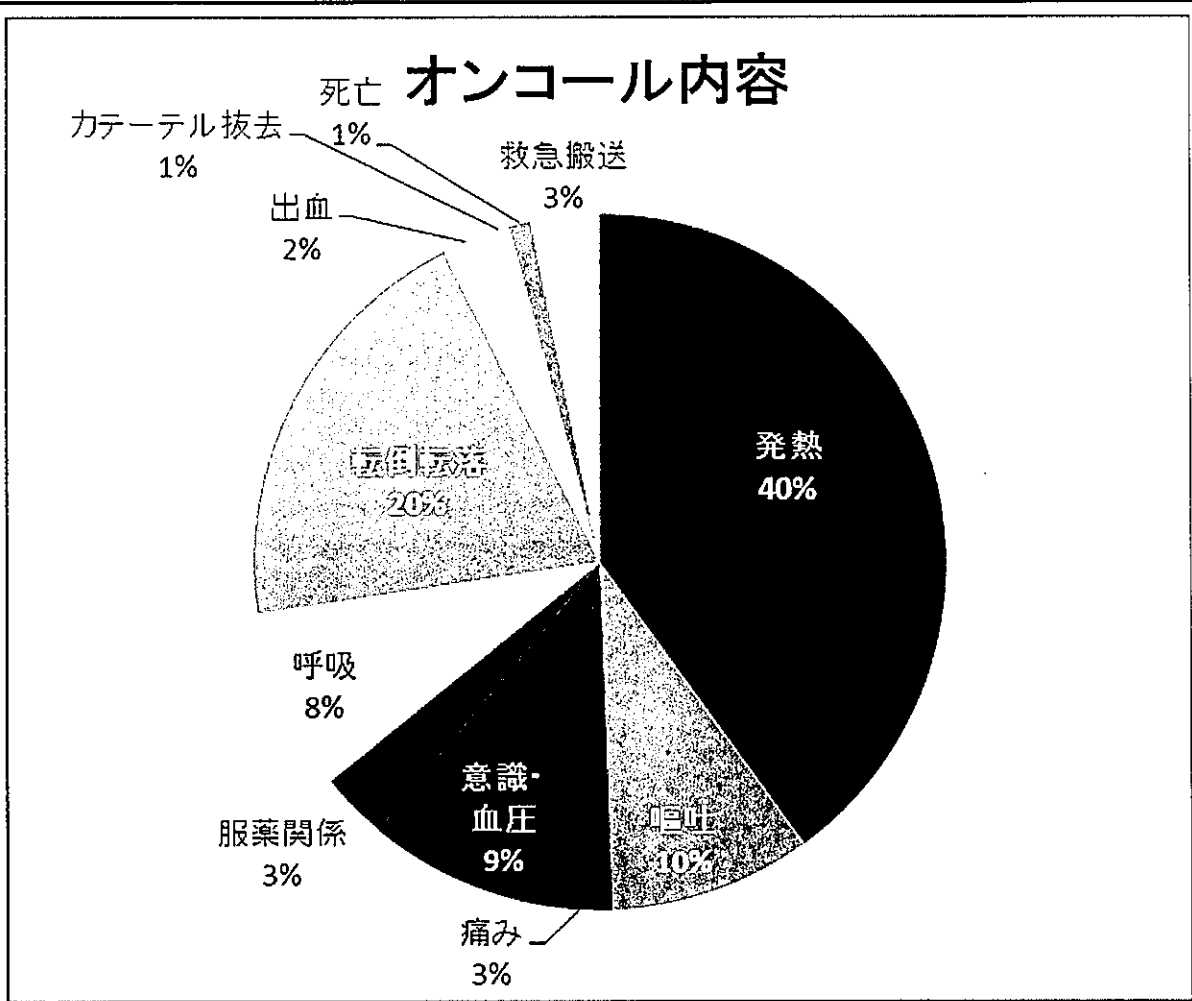
緊急受診対応については、各業種と連携のもと、スムーズに対応できた。オンコール総件数は、昨年度が77件、今年度が95件、と比較して18件増加、内訳は、直接対応は、22件から19件と3件と減少したが、逆に、電話対応は、55件から76件と21件増加した。平均すると3日から4日にかけてのオンコールである。これは、入所者の重度化が影響していると考えられる。日勤帯の早期判断と早期対応が、夜間のオンコールの負担を軽減させると考える為、情報の共有と主治医や病院、他職種の連携に努めた。

人材確保は、今後とも継続して取り組んでいく課題である。新年度から入職される方の話では、看護課として取り組んで受賞したアクティブ福祉での研究発表した動画を見て、この施設にしようと思ったという声もあり、日々の取り組みが、予想しないところでの効果にもつながっていると感じた。

人材育成については、各人が、各種研修に積極的に参加し研鑽した。職員会、新人職員・新夜勤者に対し、各課の枠を超え研修を行った。







### 3. 感染症管理体制の継続と予防の強化

前年度は、利用者の感染性胃腸炎・インフルエンザの感染者はゼロということで、今年度も「発生させない・広げない・もらわない」三原則と、スタンダードプリコーションの徹底、「職員の感染症の持ち込みはゼロにしよう！」をテーマに取り組んだ。3月下旬まで利用者のインフルエンザ・感染性胃腸炎ゼロの感染対応が出来ていたが、3/22の職員のインフルエンザB型の感染を皮切りに1階入所者7名に感染し、4名の方が肺炎の合併症を起こし入院となった。ただ、他の階に感染拡大をしなかったのは、感染症に対する取り組みが効果を上げていることと、1階に浴室を整備したことで、フロア間の移動が少なくなり、他の階への感染拡大がなかったことは、ひとつの成果と言える。(ちなみにスタッフの感染性胃腸炎は1名の方が2回感染、インフルエンザA型は5名感染、インフルエンザB型は4名感染となっている)

循環型機械浴槽のレジオネラ対応は、保健所の指導の下、対応を継続して行い入浴は行えている。

今年度を振り返ると、感染症と言えば、ノロウイルスとインフルエンザに注目しがちだが、他の感染症にもさらに注意していかなければならないという事を認識させられた。薬剤性耐性菌のMRSA, ESBL, 肝炎ウイルス保菌者の方が、入所者として増加しつつある。まだまだ、スタッフ教育や浴室の各階整備等、改善していかなければならないところが多々ある。次年度も継続して取り組んでいく。

#### 4. 看取りケアの充実

今年度は、13名の方が退所されたが、そのうち8名の方が亡くなられ、うち4名の方の看取りケアを実施する事ができた。病名は、2名が老衰、1名が誤嚥性肺炎・アルツハイマー、1名がパーキンソン病であった。看取りケアの日数は、最短で3日、最長で14日間、平均で8.75日であった。看取りケアの中では、様々なエピソードに出会うことができ、その人らしく、また、その方が選んだかのように、その方にとって一番いい時間でのお別れをすることができた。亡くなられた後の表情は、いまにも起き出しそうな表情で、柔らかな笑みを浮かべている方ばかりであった。家族の希望された着物を着て、家族・スタッフ共々に納得の看取りケアをすることができ、家族にも感謝されることができた。

看取りケアを深めるため、研修への参加やターミナル委員会での話し合い、フロアスタッフによる振り返りも実施した。次年度も入所者や家族の意向をさらに反映させるため、平穏時からの意向確認やさらなる情報収集を図り、看取りケアだけを意識せず、つねに尊厳を持ったケアを行っていく事が大切であると再認識した。

#### 看取りケア

項目 年度	総退所者	看取り	施設・ 病院死亡	転院	～10 日	～20日	～30日	30日 以上	平均日 数
H26	16	7	5	4	3	2	2	0	13.9
H27	20	8	7	5	4	1	2	1	16.1
H28	13	4	4	5	3	1	0	0	8.75

#### 5. 関連部門との連携協働を図る

特養関連部門では、定例会議はもとより、事が起これば随時課長が集まり話し合い、細かな連携をとることができた。困難ケースとしては、昨年度から医師の処方や受診に対してクレームをつけられる家族もあり、対応に苦慮したが、主治医も含め、特養のチームで一丸となり乗り越えられ、無事転所する事ができた。

研修や教育も、協力して計画し常勤・非常勤ともに人材育成に取り組めた。

褥瘡は、「褥瘡ゼロ」を目標に取り組んだが、常に褥瘡発症者1名を計上するに至り、目標の達成は厳しかった。

リハビリは、機能訓練指導員と看護介護スタッフとの協同で取り組み、更なる充実に向かっている。

今年度も三育学院大看護学科の実習を受け入れたが、49名延べ249名の学生を受け入れ指導することができた。また、1年生の見学実習や社会福祉士の実習も受け入れ、未来の人材育成ができた。

平成28年度 事業報告	管 理 課	課 長：清水浩二
-------------	-------	----------

部門職員数（平成29年 3月 31日 現在）

課長 1名	主任 1名	副主任 0名	常勤 2名 非常勤 3名	総合計 7名
-------	-------	--------	-----------------	--------

## 平成28年度「事業計画」の達成状況

### < 課題と実施計画 >

#### 1. 「業務省力化」と「目標予算管理」の徹底

##### ・日常業務における「業務省力化」

- ① 財務会計システムのアップグレードにより、仕訳の複写機能が可能となり、毎月1,000以上の仕訳に要していた作業時間を、短縮することが可能となり、エラーチェックも容易となった。
- ② e-Gov（電子申請システム）の活用として、eLTAXの導入に向けた準備を開始したが、法人が発行する電子証明書の準備等が完了しなかった為、運用に至らなかったが、次年度はスタートできる予定である。また、社会保険の申請等について電子申請で行えるよう整備していきたい。
- ③ マイナンバー管理体制の構築については、スタンドアロンで使用している給与計算システムをアップグレードし、マイナンバーを一元的に管理することが可能となった。
- ④ 業務手順や業務内容の見直しについては、抜本的な取り組みは出来なかったが、基幹システムの機能を更に活用し、操作性を高めることで、日常業務の省力化を図ることが出来た。

##### ・健全経営に向けた「予算管理」の徹底と、財務上の異変の早期発見に向けた制度向上

予算分析会議は、4半期に1回の開催となったが、サービス区分毎の予算実績状況を確認し、当初予算との差異から収入・支出に関する異常値を発見し、収入減に対する課題抽出や経費支出の削減に取り組む資料とすることができた。収入については、「介護保険事業収入」の執行率が100.2%、163万円程のプラスとなり、ほぼ当初予算通りの結果となった。また、「施設整備補助金」については、東京都共同募金等の補助金が交付され、748万円のプラスとなっている。支出に関する当初予算との比較では、先ず、「人件費」の執行状況が95.9%、2,460万円の減額となった。これは、予定していた職員数を確保できなかったことが要因である。短期的には財務状況にプラスの効果となるが、中長期的には事業継続にマイナスの影響をもたらすことから、人材の確保は健全経営の為には不可欠となる。事業費支出の「光熱水費」については82.2%、495万円の減額となり、電気が264万円、ガスが273万円と大きく当初予算を下回った。また、事務費支出の「業務委託費」についても、ガス空調の電化と、照明器具のLED化により、年間のメンテナンス料が不要となり、245万円の削減につながった。その他では、「広報費」が128万円のプラス、「建物取得支出」が1F浴室の整備に伴い2,317万円のプラスとなっている。

#### 2. 「経営分析」による短期・中期的な事業体制の分析

##### ・加算取得に必要な体制の整備や人事配置等の検討

- ①、② 加算取得要件に必要な体制の整備と人事配置等の分析と検討

##### <特別養護老人ホーム>

- ・「経口維持加算Ⅰ,Ⅱ」 (Ⅰ) 400単位/月、(Ⅱ) 100単位/月 (既取得加算)

歯科医師または歯科衛生士が関わる必要であり、東京衛生病院（歯科）の協力により、平成27年8月から取得を開始している。現在、対象となるご利用者は15名（全体の18%）

で、年間 62 万円の加算額となった。

・「障害者生活支援体制加算」 26 単位/日 (未取得加算)

視覚、聴覚、言語、知的、精神等の障害があり、障害者手帳(1～2級)を有しているご利用者が15名以上いることが条件であり、常勤の障害者生活支援員1名の配置が必要となる。体制加算である為、取得が可能となれば年間750万円の加算となるが、要件の確保が困難である。

〈デイサービス〉

・「中重度者ケア体制加算」 45 単位/日 (既取得加算)

南沢デイサービスでは、平成27年から取得しており、要件としては、利用者の3割以上が要介護度3以上で、看護職員、介護職員が指定基準より常勤換算1以上配置されている必要がある。昨年度は要介護3以上の利用者確保することが困難であったが、今年度はご利用者の重度化により可能となった。

・「認知症加算」 60 単位/日 (未取得加算)

介護または看護職員が常勤換算で2名以上確保されており、日常生活自立度Ⅲ以上のご利用者が総数の20%以上いること、そして認知症介護の指導者研修、実践リーダー研修、実践者研修等を終了した者が1名以上いることが条件となる。介護、看護職員の確保が障害となっている。

〈グループホーム〉

・「サービス提供体制強化加算(Ⅰ)ロ」 12 単位/日 (既取得、未取得加算)

シャローム本天沼では取得しているが、グループホーム白山ではⅢとなっている。(Ⅰ)ロでは、介護福祉士が職員の50%以上(Ⅰでは60%以上、18単位/日)の配置が条件となり、加算の取得に向けて、有資格者の確保及び配置が必要となる為、人事配置を配慮する必要がある。

- ③ 「日常生活支援総合事業」の準備に向けた在宅事業所会議を原則月1回 実施し、平成29年度から東久留米市が実施する、独自の「総合事業」の理解と体制整備に向けた話し合いを行っている。

### 3. 「記録業務のIT化」の推進による職場改善に向けた取組み

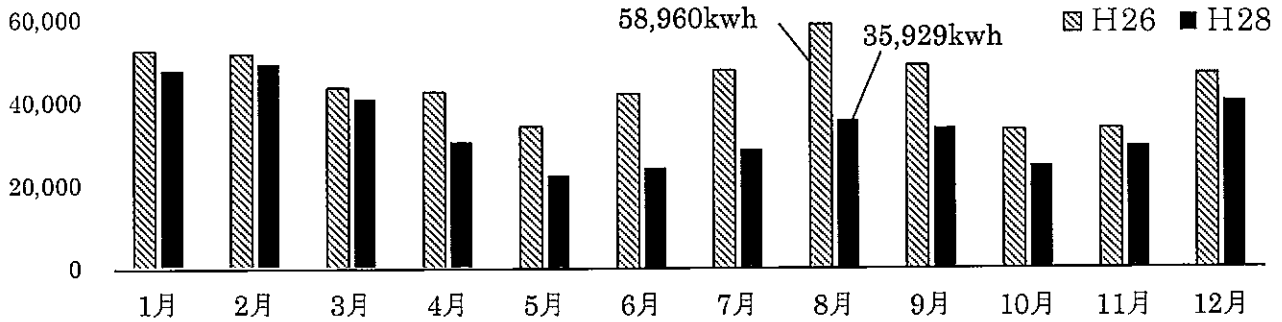
生活介護課の記録委員会と協同し、記録業務のIT化を推進した。先ず特養のフロアにおいて、職員が随所で入力業務を行えるよう、6月に無線LANの環境を整備し、記録システム(NDソフトウェア)を導入したノートパソコン4台を増設した。また、これまで手書きで記録していた帳票も、可能なものから直接システムへ入力することになった。その為、パソコン操作が苦手な職員やパート職員にとっては、一時的に記録に係る時間が増えているのだが、今後、作業が習熟していくことで、作業時間も短縮し、業務の負担軽減につながっていくことを期待している。

「状況報告書」や「事故報告書」等のシステム入力の帳票については、一部入力ができない状態となっている為、平成29年度にプログラム等の修正をNDソフトウェアに依頼していく。

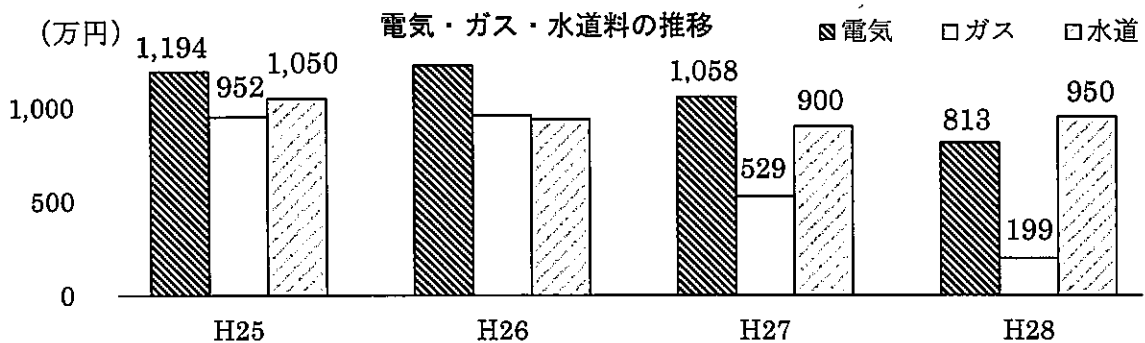
### 4. 「施設整備」に対する取組み

- ① 平成28年度は、昨年度「SII(一般社団法人 環境共創イニシアチブ)」からの補助金により整備したEMS(エネルギーマネジメントシステム)により、空調、照明設備による省エネ効果が見られた。下記のグラフでは、システムの設置前の平成26年と設置後の平成28年の電気使用量を比較しており、年間を通して電力を削減できていることが分かった。特に6月から9月にかけての夏場の削減効果が大きく、8月には23,031kwhの差が生じており、LEDのみならず、ユニット型エアコンの冷房による節電効果が大きいことが明らかとなった。年間の削減量は127,723kwhであり、427万円の削減となった。

平成 26 年、平成 28 年 電気使用量の月次比較



- ② 東京都共同募金整備費の補助事業により 1 階利用者共用トイレの浴室改修工事を実施した。1 階のご利用者は重度化が進み平均要介護度が 4.9 である為、入浴時に 3 階へ移動することはご利用者にとっては負担が大きく、体調不良や感染症の不安もあり、1 階にも入浴設備を設置する必要性が生じていた。今回の改修工事により、介護に適した環境へ改善できた。改修工事にかかった費用は 8,574,336 円、東京都共同募金からは 5,860,000 円 (補助率 68.3%) の配分交付金を頂くことが出来た為、自己負担額を 2,714,336 円に収めることができた。
- ③ 1 階浴室の整備に伴い、厚生労働省・ハローワークの「職場定着支援助成金」を活用し、11 月に機械浴槽の設置を行った。機械浴槽は狭いスペースでも介助が可能な酒井医療株式会社の「新湯式仰臥位浴槽アリッサム」を導入した。購入費用は 5,303,880 円、助成額は 2,651,940 円 (助成率 50%) であった為、初期費用は抑えることが出来たが、当該機種はレジオネラ菌等の感染症予防に適した 100%新湯方式であり、前年度に比べて月額の水道料が 15 万円アップする結果となった為、今後の運用方法を検討していく必要である。
- ④ 建物各所の修繕については、設置後既に 15 年が経過していたボイラーが経年劣化の為、修繕が必要となった。業者からは 200 万円の見積りが提示されていた為、今年度も「SII (一般社団法人 環境共創イニシアチブ)」の省エネ補助事業を活用し、現行のガス式ボイラーに代わり、電気式のヒートポンプ式の給湯システム (ダイキン MEGA・Q) にリプレイスし、15 t の給湯タンクを設置した。導入設置費用は 23,544,000 円、補助額は 662 万円 (補助率 28%)、法人負担額が 16,924,000 円と初期投資は高額となったが、ガス使用量の低下とメンテナンス料の軽減、夜間電力を利用した効率的な電気使用量等により月々のランニングコストが下がり、9 年目には新型のガスボイラーを設置した場合の総コストを下回り、12 年目では初期投資費用も回収できる見込みである。設置後、室外機の騒音に対して近隣から苦情があった為、地下室へ移設したが、室外機の空気交換により地下室内の温度が下がり、他の機器にも影響している可能性が出ている為、次年度において改善に向けた取り組みを行っていく。



- ⑤ メンテナンス計画と建物管理については、空調システムやボイラー等のリプレースにより、それらに掛かるメンテナンス費用の削減が可能となり、また、設備を監視する中央制御盤の保守料も軽減できたことで、委託費を103万円程削減することができた。しかし、年度末には地下のスプリンクラーの配水管のフランジとパッキンが経年劣化により亀裂が生じ、大量の防火用水が噴出するなど、ビルメンテナンス会社の年度修繕計画には無かった箇所の不具合も出てきている。次年度は設立25周年であり、目に見えない部分も劣化により問題も出てくる時期であることから、設計事務所とも相談しながら、経年劣化に伴う修繕項目の確認を行っていく。

#### 5. 「法人組織体制」の見直し

- ・平成29年度から施行される「社会福祉法人改革」に伴い、平成29年3月の理事会において、4月1日付けで就任する新評議候補者(6名)の推薦を行い、評議員選任・解任委員会を設置し、同委員会で承認を頂いた。また、新理事のメンバーは6月に行われる評議員会にて選任されることとなる。
- ・三法人の事務連絡会議を年5回開催し、社会福祉法人改革に向けた情報共有と、将来的に実施を検討している、三育福祉会、アドベンチスト福祉会、三育ライフの統合に向けた検討を行った。また、各法人の規程やガバナンス体制を共有し、キャリアパスの見直しをし、それぞれの組織体制の強化に向けた話し合いも実施している。
- ・経済連携協定(EPA)による外国人看護師・介護福祉士候補者の申請事業を行い、平成29年12月からはインドネシアから2名の研修生を受け入れることが決まっている。

#### 6. 「シャローム東久留米 東京都実地指導検査」について

平成28年7月5日に、当施設の特別養護老人ホーム、短期入所介護事業、通所介護事業に対して、東京都福祉保健局による定例の実地指導検査が実施された。検査については、運営管理、利用者サービス、会計管理について行われ、東京都、東久留米市の検査員7名が来所された。

平成28年9月15日付けで、検査の結果について通知(28福保指一第355号)があったが、文書により指導する事項は認められなかったことについて報告を受けた。

## 6. 職員の状況

### ① 職員配置について

(平成29年3月31日現在)

部門 職種	シャローム東久留米			シャローム南沢			中部地域包括 支援センター			幸町デイベ センター			グループホーム 白山			シャローム 本天沼			重症心身障害児 通所施設わかば			合計		
	特養・ショート		P常勤 換算	デイ・居宅・NLP		P常勤 換算	職員		P常勤 換算	職員		P常勤 換算	職員		P常勤 換算	職員		P常勤 換算	職員		P常勤 換算	職員		P常勤 換算
	常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート		常勤	パート	
施設長	1																					1	0	0
セク長、ホム長				1			1			1			1			0.5			1			5	0	0
事務員	3	1	0.5		2	1.4		1	0.9													3	4	2.8
相談員	2			1			5			1												9	0	0
看護師	4	4	2.2		2	1.2					3	0.6						1	4	0.9		5	13	4.9
ケアマネジャー	1			3				1	0.9													4	1	0.9
ケアワーカー	24	31	13	3	6	4.6				3	6	3.6	3	7	5.5	3	8	6				36	58	32.7
洗濯員		4	1.6																			0	4	1.6
ホームヘルパー				4	17	5.3																4	17	5.3
保育士																		1	2	0.8		1	2	0.8
栄養士	1																					1	0	0
運転・清掃	1	2	1.6		5	2				1	0.3											1	8	3.9
医師		3	0.1																			0	3	0.1
機能訓練指導員	1			1														1	3	0.3		3	3	0.3
音楽療法士		1	0																			0	1	0.03
その他		2	1.7																2	0.2		0	4	1.9
小計	38	48	21	13	32	14.5	6	2	1.8	5	10	4.5	4	7	5.5	3.5	8	6	4	11	2.2	73	118	55.2
職員合計	86			45			8			15			11			11.5			14.5			191		
常勤換算計	58.7			27.5			7.8			9.5			9.5			9.5			5.7			128.2		
入職者	4	13	5.2	1	5	2.5	2	1	0.9	0	4	1.4	0	1	0.4	0	4	2	0	4	0.8	7	32	13.2
退職者	4	8	4.6	1	3	1.3	1	1	0.9	0	4	1.5	0	2	0.9	0	5	2.2	0	2	0.5	6	25	11.9

### ② 平均年齢・平均勤務年数・有給取得率

項目 職種	平均年齢(歳)		平均勤務年数(年)		有給取得率(%)	
	常勤	パート	常勤	パート	常勤	パート
生活相談課	34.7	41.0	6.3	1.0	4.7%	0.0%
生活介護課	38.8	59.9	8.8	8.2	13.0%	67.3%
管理課・栄養課	52.0	39.6	15.0	5.3	25.3%	46.3%
看護課	53.0	50.2	6.7	3.8	67.2%	77.0%
在宅福祉課	47.5	50.0	10.5	4.8	40.9%	66.2%
ホームヘルパー	49.0	57.7	10.7	10.8	6.0%	98.2%
居宅支援	46.5	43.5	8.3	1.0	31.0%	72.2%
幸町デイ	45.0	51.5	8.6	3.3	29.4%	63.5%
支援セカ	45.3	48.0	6.5	4.3	78.6%	84.3%
GH白山	53.0	49.4	12.7	6.6	29.2%	89.0%
本天沼	33.0	51.2	12.0	5.2	24.6%	100.0%
重心わかば	33.3	40.0	5.0	0.5	55.1%	100.0%
全体	42.7	53.8	8.8	6.5	27.1%	78.3%

## 7. 防災訓練等

日時	訓練	種別	対象	参加者人数
4月1日	新入職員防災避難訓練	消火訓練	平成28年度新入職員	(職員 10名、利用者 0名)
8月17日	夜間避難誘導訓練	消火・避難訓練	特養2階	(職員 5名、利用者 18名)
11月10日	昼間避難誘導訓練	通報・消火訓練	南沢デイ	(職員 5名、利用者 28名)
11月15日	震災・火災発生時の防災避難訓練	通報・消火・避難	特養3階	(職員 5名、利用者 28名)
3月3日	AED救急救命訓練	救急救命	特養2階	(職員 14名、利用者 0名)
3月31日	昼間避難誘導訓練	通報・消火・避難	特養	(職員 8名、利用者 12名)

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	多職種協働による健康管理体制のもと、利用者・家族の気持ちに配慮した看取りや褥瘡の改善、食事の経口摂取維持が行われている
	内容	施設では「看取りの指針」に基づき、医師、看護職員、介護職員、管理栄養士、生活相談員などの協働により、昨年度8名の看取りを行った。利用者・家族の思いに寄り添い、多職種で連携を密にして健康状態に気を配り、家族と連絡を取り合って、利用者・家族が望む穏やかな最期を迎えられている。フロアでのお別れの会や振り返りには多くの職員が参加している。また褥瘡の改善、食事の経口摂取維持にも各専門職員が協働で対応し、褥瘡ゼロや食事の経口摂取に取り組んでいる。多職種協働による健康管理が行われ、利用者の安全や安心が図られている。
2	タイトル	フロアでの企画、ボランティアによるプログラム、施設のお祭り、小学生や地域住民との交流など、利用者が楽しめる企画が豊富にある
	内容	施設ではフロアを重介護者、軽介護者、認知症の方で分けており、各フロアでプログラム検討委員会を開いて、体操、外出、調理、行事などフロア利用者の特性に合ったレクリエーションを行っている。また多くのボランティアが来所し、書道、華道、茶道などのクラブ活動や、オカリナ、シャンソン、ホーム喫茶、マッサージなど多彩なプログラムが行われている。年に1度のシャローム祭は利用者参加型のお祭りであり地域住民と触れ合う機会となっている。幼・保育園児、小学生、中学生との交流もあり、多くの企画によって利用者の生活を楽しいものになっている。
3	タイトル	職員育成は充実した人事育成制度に加え、自己啓発を通じ達成感や自信を醸成する仕組みを実践している
	内容	職員育成の特徴は、施設の充実した人事育成制度での育成に加え、自己啓発を通じて自信・達成感を得る仕組みを実施していることである。自己啓発は「施設内自主研究発表会」と「アクティブ福祉in東京」での発表である。毎年プロジェクトを組み、現場での研究テーマを設定し、1年間の研究を行い、「施設内発表会」と「アクティブ福祉in東京」でプレゼンテーションをする。他施設から「発表が参考になったので担当者を勉強に行かせたい」との申入れがあり、外部の評価は発表者の達成感や自信の醸成のみならず、施設の評価向上にもつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	今年度の浴室増設を受けて、入浴の人員体制の検討や必要な物品の整備が期待される
	内容	入浴設備が3階にあったため、今まで1、2階の利用者も3階で入浴を行っていた。しかし1階の利用者は重介護の利用者が多く、長い距離の移動は負担であるうえ、感染症対策としてフロア移動が禁止になると入浴できないことがあった。今年度1階に浴室の増設を行い、12月より稼働が始まっている。これにより1階のみならず2、3階の利用者も、余裕を持った入浴が行えるようになった。しかし稼働から日が浅く、入浴の際の人員体制や必要な物品の整備・配置の検討を行う必要があるため、早急な検討が期待される。
2	タイトル	IT化による記録業務の効率化や情報の共有化に取り組んでおり、特に介護現場での介護情報の入力の充実に期待したい。
	内容	介護・看護記録や事務管理業務等のIT化を進め、記録業務の簡素化や効率化を図り、職員の負担軽減や業務改善、情報の共有化に取り組んでいる。各パソコンにはセキュリティ対策をし、IDやパスワードでアクセス制限を実施している。手書きによる記録が一部残っているが、手書きでの情報共有や伝達の良さもあるとして、取扱いや保管・管理には細心の注意を払っている。本年より介護現場において、無線ランによる介護情報の入力を開始したが、その普及と充実が期待される。
3	タイトル	地域包括ケアシステムの構築に向けた、マネジメント力の一層の充実が期待される
	内容	当施設には、施設が長年培ってきた職員の高い専門性、充実した設備、地域からの信頼などをもとに、多職種間の協働、姉妹施設間の連携によって、地域包括ケアシステムを有効に運営するうえで地域の模範となることが期待される。経営層・リーダー層のマネジメント力、コミュニケーション力の一層の向上が重要であり、とりわけ中堅層を中心とする更なる人材育成が望まれる。



部 門	報 告 責 任 者
チャプレン	我 謝 悟 ・ 村 上 亮

### 平成28年度「事業計画」の達成状況

「法人の基本理念を大切にし、職員の働きが、少しでも利用者やご家族の皆様、地域の方々に潤いや感動、希望や勇気を与える働きができるように、支援していく。看取りケアのさらなる向上、スピリチュアルケアの実践に寄与する」という目標を立てて、今年度からチャプレンとしての働きを開始した。

スタート時の課題として、事業所を知る、利用者を知る、職員を知ることから始めた。その中で、各部署の職員とコミュニケーションを取り、事業内容がある程度理解し、東京事業所がどのような事業体であるかをつかみ、その中でチャプレンとしての働きを見つけていく計画であった。しかし、実際は、各部署から勤務のフォローを依頼され、不足していた勤務のサポートを行うことが多い一年となった。

1. 当施設の特徴の一つである看取りケアをより一層質の高いものとしていくための協力をする  
お別れ会に2回参加し、1回は司式を担当したが、特養での勤務が少なく、看取りの対応に係る時間がほとんど持てなかったことが大きな課題である。
2. 地域への働きをサポートするために、ボランティアコーディネーターを補助し、行事やイベントの協力を通して各部署の連携のサポートをする。  
各部署の行事に参加し、サポートすることはできた。一年を通して、東京事業所の行事やイベントの流れをつかむことができたので、次年度以降積極的に協力していきたい。
3. 心の糧（土曜日）・聖書のお話（水曜日）などを通して心の安らぎを提供する  
聖書のお話（水曜日）の実施回数と出席人数と平均  
4月：3回24名。5月：3回24名。6月：4回30名。7月：2回15名。8月：3回30名。  
9月：4回32名。10月：1回8名。11月：0回。12月3回24名。1月：0回。2月2回16名。  
3月：2回16名。平均8名  
心の糧（土曜日）の実施回数と出席人数と平均  
4月：5回138名。5月：5回139名。6月：3回90名。7月：5回150名。8月：1回30名。  
9月：3回85名。10月：4回120名。11月：3回90名。12月：3回84名。1月：4回116名。  
2月：3回86名。3月4回118名。平均27名  
心の糧は、できるだけチャプレンが行う事として一年を通すことができた。土曜日はチャプレンのお話の時間ということが定着し、利用者が落ち着いて参加することができたのではないかと。
4. 法人の働きなど、必要に応じた支援をする。  
一年間ほぼ、この働きに終始したのではないかと。しかし、この一年の働きが、今後本来のチャプレン業務を進めていくうえで、有意義な時間となったのではないかと。職員とのコミュニケーションを取っていく中で、その部署でのチャプレンとしてのかかわり方を意見交換でき、現場からの要望により、利用者との交わりの時間を作るなど、活かしていけるアイデアが出てきている。今後も、法人として緊急、かつ必要不可欠な応援は行う事になると思われるが、チャプレンとしての働きも少しずつ進めていき、法人の基本であるキリスト教の精神を活かして、利用者、職員の安心をサポートしていきたい。

平成 28 年度事業報告	在宅福祉課	課長： 鷹部屋 宏平
--------------	-------	------------

部門職員数（平成 29 年 3 月 31 日 現在）

課長 1 名	主任 0 名	副主任 1 名	常勤 4 名	合計 6 名
			非常勤 13 名	総合計 19 名

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 安定的な経営

前年度の 6 月より定員を減らしたことで入浴回数をお一人 2 回以上保障したことにより年間稼働率については目標を達成することができた。（平成 28 年度事業計画においては、目標年間平均稼働率を 80%と設定していた。）

達成できた理由としては利用者の中重度化、定期的なショートステイの利用、体調を崩しての入院、福祉施設への入居等があったが、そんな逆風の中、登録者数のアップ、新規利用者の獲得、非日常を感じられるプログラム(外出・流しそうめん・そば打ち体験等)の提供で、ご本人、ご家族、居宅介護支援事業所からの多くの評価を得たことにある。

当センターの特徴でもある中重度者向けのサービスとして個別・グループ別リハビリ、体力測定の定期実施において一定の評価を受けたことも大きな要因であると考えます。

入浴希望者も引き続き多く、週 2 回の入浴を浴室改修後より予定通り実現することができた。この取り組みに理解、協力してくれたスタッフの頑張りにも感謝したい。

### 2. ご利用者の尊厳を重視した接遇態度での対応

今年度も昨年度に引き続き、接遇専属の担当者を作り、毎月、定期的な勉強会を開催することができた。スタッフ一人、ひとりが意識的に接遇のことを考えながら働くことができた。

しかし、まだまだ勉強が必要なため来年度も同じような意識改革を継続していく。細かい点においてまだまだ、いたらない点が多く外部での研修や勉強会も視野に入れながら検討していきたいと考えている。

接遇はデイサービスにおいて送迎・入浴・排泄・食事の場面において重要な介護の一つであることを一人一人が再認識して、今後のシャローム南沢ケアにつなげていきたいと考えている。シャローム南沢クオリティを引き続き上げていきたい。

### 3. 地域社会のニーズに応える。

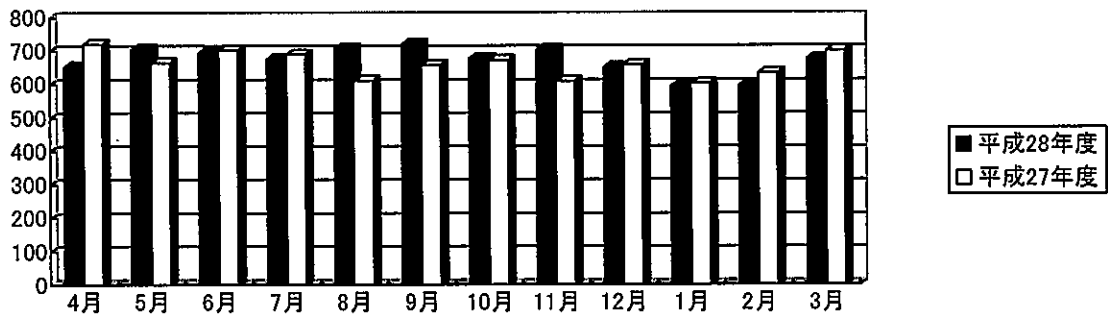
地域社会のニーズは中・重度化する利用者へのきめ細かい対応であると考えている。今年度は東久留米市の地域総合支援事業の準備に追われたが、納得のいく準備ができなかったのが反省点である。この反省を踏まえて今後どのような総合支援事業を構築していくかを早急の課題として考えていきたい。

近隣のミニデイサービスへの出張、認知症介護の啓蒙活動等に参加して、デイサービス利用者だけでなく、近隣の地域の方々へのシャローム南沢の活動を広げていきたいと考えている。今年度も中部地区において「認知症カフェ」・「誰でも居心地〇〇カフェ」を不定期に開催することができた。今後はこの活動を中部地区以外にも広げていきたい。

## 2. 部門業務資料

### (a) 月別利用実績

28年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延べ利用者数	652	704	695	675	707	719	677	704	650
活動日数	21	22	22	21	22	22	21	22	22
月間総定員	819	858	819	819	858	858	819	858	858
稼働率	79.6%	82.1%	81.0%	82.4%	82.4%	83.8%	82.7%	82.1%	75.8%
27年度実績	719	664	702	690	611	657	671	608	658
増減	-67	+40	-7	-15	+96	+62	+6	+96	-8
28年度実績	1月		2月		3月		合計		
延べ利用者数	594		596		676		8049人		
活動日数	20		20		23		258日		
月間総定員	780		780		897		10,062人		
稼働率	75.8%		76.4%		75.4%		80.0%		
27年度実績	602		633		700		7,915人		
増減	-8		-37		-24		+134人		



### (b) 介護度別利用者分布 (3月実績分)

	軽度		中重度		
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
28年度	24	21	18	10	2
	45		30		
前年度	25	23	14	6	4
	48		24		

	要支援1	要支援2
28年度	4	3
前年度	8	2

平成 28 年度 事業報告	幸町デイサービスセンター	課長：木村 貴博
---------------	--------------	----------

部門職員数 (平成 29 年 3 月 31 日 現在)				
課長 1 名 (相談員兼務)	主任 1 名	副主任 1 名	常勤 5 名 非常勤 9 名	総合計 14 名

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

### 1) 開設 10 年目の節目を迎える年度として充実したプログラムの立案

- ・ 7 月 1 日に開設 10 周年となりこの日も多くのご利用者と職員、関係者各位そしてボランティア様と共に盛大に祝福することができた。皆様それぞれが当施設に対する思いやこれからの願いも伝わり改めて地域の介護サービスとして大きな役割を担っていることを再認識する年となった。
- ・ 提供したプログラムは今までの経験を活かした定番のレクリエーションに加え職員各自が内外部より学んできたスキルを日々のプログラムに反映させ、様々なアイデアが飛び交い互いに切磋琢磨し合い、ご利用者の多くのご要望に応えることができた。

### 2) 質の高いサービスの提供と各職員のスキルアップ

- ・ 上記のプログラムの充実度に加えて、質の高いサービスを目指し多方面に目を向ける機会を多く設けた。体操・手芸・園芸・音楽・演芸に特化したボランティア様を多数お招きし、ご利用者が行うプログラムに選択の幅を広げたと同時に職員の意識向上にも繋がった。
- ・ 平成 29 年度から始まる東久留米市の新しい総合事業について一年を通し模索した。当施設には現在も多くの要支援 1・2 の方が在籍し (全体の約 35%) 新総合事業の対象となる方々が更新を控えている状態であった。元々介護度が低い方達の集いの場として運営してきた当施設の一つの特色でもあった為今後も予防給付者を積極的に受け入れを実施し地域のニーズに応えていく姿勢を次年度も継続して行く方針とした。
- ・ 法人全体でも力を注いでいる「接遇」を含め多岐の内容で勉強会を重ねてきた。しかし例年よりも少ない学びの回数となってしまった。理由の一つとして利益率を重視しご利用者が選択する長いコース (デイ滞在 7 時間) の方の割合を増やしたことにより職員の仕事内容、時間に変動があり、定刻までに進行できない日が多くこの課題は次年度に解決策を思考する事とする。

### 3) 近隣地域での積極的な関わり

- ・ 今年度も新たに 2 ヶ所の中学校が職場体験をする施設として当センターにお声を掛けて頂き福祉に興味がある若者達が高齢者と関われる機会をより提供できるようになった。
- ・ 門扉周辺の花壇を整備し植木をアニメのキャラクター風に刈り込みをした結果、保育園児のお散歩コースとなっていたり、近隣住民の方にも敷地内に気軽に足が運べる雰囲気となり地域交流がより盛んになった。
- ・ 毎年恒例となり継続してきた「幸町ハッピーフェスタ」。今年度も来客数、売上も前年度を大きく上回り多くの方に認知度が広まっている事が実感できた。イベントを通して微力ながら地域貢献・地域還元という意識を皆で共有し続けながら人の輪を大事に今後も遂行して行きたい。

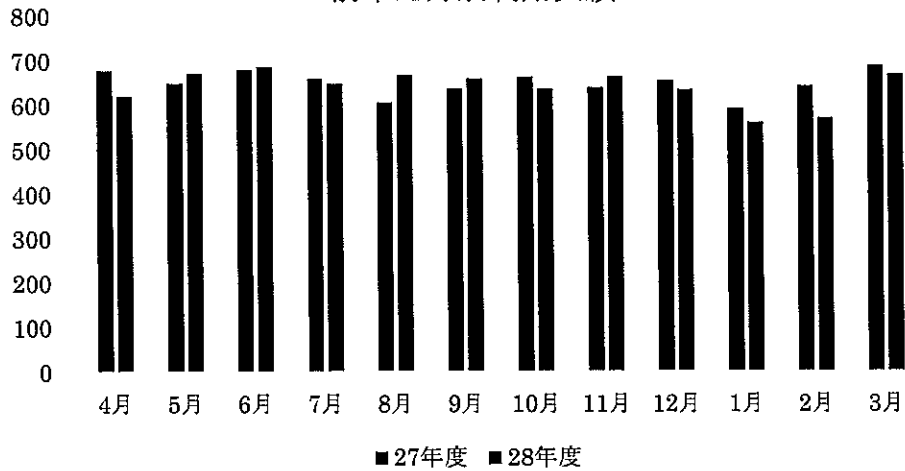
## 2. 部門業務資料

### 1) 月別利用実績

28年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延べ利用者数	620	672	687	648	667	659	636	664	634
活動日数	21	22	22	21	22	22	21	22	22
月間総定員	714	748	748	714	748	748	714	748	748
稼働率(%)	86.8%	89.8%	91.8%	90.8%	89.2%	88.1%	89.1%	88.8%	84.8%
27年度実績	678	649	680	660	606	637	663	639	654
増減	-58	23	7	-12	61	22	-27	25	-20

1月	2月	3月	合計
560	570	668	7685
20	20	23	258
680	680	782	8772
82.4%	83.8%	85.4%	87.6%
591	642	688	7259
-31	-72	-20	528

前年比月別利用実績



### 2) 介護度別 登録利用者分布 3月分

	自立	予 防 介 護		介 護 給 付				
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
28年度	0	12	11	43	11	2	0	0
		23		54		2		
27年度	0	14	13	48	11	3	0	1
		27		59		4		

## 部門職員数(平成 28 年 3 月 31 日 現在)

課長 1 名 (兼務)	主任 1 名 (主任介護支援 専門員)	副主任 1 名 (主任介護支援専 門員)	常勤 1 名	合計 4 名
----------------	---------------------------	----------------------------	--------	--------

## 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

今年度は 4 人体制でスタートしたが、職員 1 名が退職したため年度末には 3 人体制となった。職員の補充ができず、担当していたご利用者の大半[介護プラン 22 名・予防プラン 7 名]を他事業所に引き継がざるを得なかったのは残念だ。

## 1. 専門性の向上

週 1 回の課内会議では、担当ケースに生じた問題の解決方法を話しあい全員で協力した。法人内研修の他、自治体・職能団体等が主催する研修には積極的に参加しスキルアップと情報収集に努めた。

## 2. 多職種との連携・協働

昨年に引き続き、介護保険サービス内の連携だけでなく、保険者、地域包括支援センター、医療、権利擁護・成年後見制度等の関係者と連携・協働し、利用者世帯が必要とする支援につないでいった。時間に猶予なく緊急で動く場合も多くさまざまな機関との関係強化と信頼関係の構築に努めた。

## 3. 運営基準の順守

常に法令遵守、記録の重要性を意識し業務にあたった。運営基準減算にならないように、アセスメント・担当者会議録(照会文書含む)・サービス計画書・訪問・モニタリング記録作成を確実にを行うように努力した。また漏れを防ぐため、第三者の目で前月のすべての記録をチェックした。

## 4. 特定事業所加算の取得

加算の取得継続のため運営基準を遵守、また加算要件である「研修」の実施とそれに付随する研修計画書や研修報告書も「個人」と「事業所」に分けて作成、評価も行ってきたが、職員の退職により加算Ⅱの条件である『主任介護支援専門員と 3 名の常勤職員』を満たすことができなくなり 3 月からはⅢになっている。

8 月に、主任介護支援専門員の 5 年ごとの更新要件が発表されたが、実践要件・資質向上要件共にかなり厳しいもので、今のままでは更新できないことが判明した。更新時期までに要件を満たせるように 9 月以降努力している。この厳しい要件から、主任介護支援専門員に求められているのはケアマネ業務に専念することではなく、地域への貢献度や地域包括ケアシステム構築の為に戦力になることだということがわかる。対外的な活動を求められている事を法人にも理解していただきたいと思う。

## 5. 地域での役割

主任介護支援専門員 2 名は東久留米市主任介護支援専門員連絡会に入会し、東久留米市、包括支援センターと連携し、ケアマネ向け研修会や勉強会の企画運営を行った為月に 1~3 回の会合に参加した。また全員がケアマネ連絡会の部会活動に参加しこちらもほぼ月に 1 回の活動を行った。市内のケアマネジャー間の連携は年々強まっている。また東久留米市在宅医療介護連携推進協議会主催の研修にも参加し地域の医師、薬剤師等医療関係者との関係強化にも努めた。

## ＜介護プラン＞

### \* 利用状況

#### [新規利用者]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	1	4	3	5	3	4	6	2	6	3	2	1	40名
27年度	5	5	5	5	2	3	4	5	4	4	3	2	47名
28年度	0	0	7	2	3	2	4	2	0	5	0	2	27名

#### [給付管理数]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	88	90	90	92	92	96	97	98	98	103	100	93	1,137件
27年度	103	103	102	110	107	101	106	101	102	104	105	113	1,257件
28年度	111	106	113	113	108	109	111	110	100	112	99	78	1,270件

#### 終了状況

年度	介護予防へ	死亡	入院・入所	その他サービス 終了転居等	合計
26年度	2	4	10	1	17名
27年度	2	15	21	4	42名
28年度	1	13	20	24	58名

#### [3か月以内に終了]

年度	死亡	転居	入所・ 入院	サービス 利用なし	その他	合計
27年度	4	1	2	2	0	9名
28年度	1	0	2	1	1	5名

#### [相談・調整後利用なし]

年度	退院できな かった・入 院した	サービス 利用なし	合計
27年度	1	1	2名
28年度	0	2	2名

## ＜予防プラン＞

### \* 利用状況 [新規利用者]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	21	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	25名
27年度	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	4	8名
28年度	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3名

#### [受託数]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	34	30	30	31	32	30	29	28	28	32	31	30	365名
27年度	32	32	33	30	29	30	30	29	29	27	26	29	356名
28年度	30	30	29	29	30	32	31	30	29	26	24	19	339名

#### 終了状況

年度	要介護へ	死亡	入院・入所	その他サービス 終了転居等	合計
26年度	4		2		6名
27年度	5		2		7名
28年度	3			8	11名

＜会議・研修等＞

\* 担当者会議

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	43	11	15	19	19	28	21	18	21	19	29	20	263回
27年度	23	19	20	39	17	25	20	18	29	21	19	15	265回
28年度	20	28	18	28	14	26	18	17	24	27	23	10	253回

\* 認定調査(月別)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	2	3	6	9	10	4	5	3	7	3	3	11	66名
27年度	5	3	11	7	5	1	6	7	3	4	2	5	59名
28年度	8	4	3	7	8	3	5	6	8	2	1	2	57名

\* 研修

月/日	研修	参加者
5/19	在宅医療・介護連携推進事業 ～今、西東京市が取り組もうとしていること～	温井
6/9	東久留米市 地域密着型サービスの運営に関する連絡会	楠美
8/3	生活支援コーディネーターの役割と活動について	温井
8/24	第1回ケアマネジャー・ヘルパー向け講座 福祉用具導入の支点と考え方 正しい介護ベッドの使い方	温井
8/29	H28年度 ケアマネジメントの質の向上研修会	鎌谷
9/13	多職種共働きの理論と研修のあり方	鎌谷
9/14	成年後見制度勉強会	鎌谷、宮下
9/26	東京都ケアマネジメント質の向上研修会	宮下
12/8	西東京市要介護認定調査員従事者現任研修	鎌谷、楠美
12/15	西東京市要介護認定調査員従事者現任研修	宮下、温井
12/19	医療の視点を持ったケアプラン作成勉強会	鎌谷、宮下 温井
1/24	東久留米市介護認定調査員現任研修	鎌谷、宮下 温井、楠美
3/8	セルフネグレクトの見きわめのポイントと働きかけを学ぶ	鎌谷、宮下
3/13	多職種協働研修	鎌谷
3/14	「リ・アセスメント支援シートを活用したケアプラン作成のポイント」	鎌谷、宮下 楠美
3/16	状態の変化に応じて多職種連携が必要な情報を ～他の職種に伝える・知る～	鎌谷
3/18	時期制度改正に向けてケアマネージャーが取り組むべきこと！	鎌谷、宮下
3/23	暮らしの場における看取りの為の多職種向け研修(基礎編)	鎌谷
	9/16、10/21、11/18 認知症のある利用者のケアプランの作り方勉強会	温井 宮下
	12/19～3/9(7日間)東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅰ	楠美
	1/19～3/15(6日間)東京都介護支援専門員更新研修	楠美
	8/2～10/18(6日間)東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	温井

\* 会議

月/日	会議	参加者
	主任介護支援専門員連絡会	鎌谷・宮下
	東久留米市介護支援専門員連絡会 全体会	全員
	東久留米市地区懇談会(中部包括)	全員



平成28年度事業報告	訪問介護課 ヘルパー	報告責任者： 宮下 賢二
------------	------------	--------------

部門職員数（平成29年3月31日 現在）

課長	1名	主任	1名	副主任	0名	常勤	3名	合計	3名
						非常勤	17名	総合計	20名

## 1. 平成27年度「事業計画」の達成状況

### 1. サービスの質の向上

- 1) ヘルパー会議にて、現場で活かせる外部から講師を招いての研修も行ない、サービスの質の向上に努めた。
- 2) サービス提供責任者は、利用者の状態を把握し、毎月、状況報告書にてケアマネジャーに報告する事ができた。利用者宅を定期訪問してのモニタリングはできなかったため次年度の課題とする。
- 3) ヘルパー部会等を活用し交流研修の機会を作ることができた。今後も継続して様々な研修を行っていききたい。

### 2. 介護保険法改正への対応

- 1) 総合事業への移行の準備に伴い、現行のケアの見直しをおこない滞在時間や訪問回数の調整をおこなうことができた。
- 2) 要介護1・2の利用者数が多くなり、再アセスメントに時間がかかり現行まだ行っている状態である。
- 3) サービス提供責任者は、利用者の状態の把握に努め、状況報告書にてケアマネジャーに報告を行ったが、定期的なモニタリングを新書式で行うことができなかった。

### 3. 他事業所との連携と営業力の強化

- 1) 他事業所への報告連絡は迅速に連絡・報告することに努めた。稼働状況は、ヘルパーが減少した為、減少傾向となった。

### 4. 人材の確保

- 1) 非常勤のヘルパーの採用はなかったが、常勤のサービス提供責任者の採用は1名行うことができた。今後も採用媒体を変えながら進めていく。

## 2. 部門業務資料

### 1. 派遣実績

実績（総派遣時間数）比較

年度	総派遣時間数	前年度差（時間）
22年度	16,959	-2,631
23年度	18,563	+1,604
24年度	15,674	-2,889
25年度	15,356	-318
26年度	13,864	-1,492
27年度	14,062	+198
28年度	13,020	-1,042

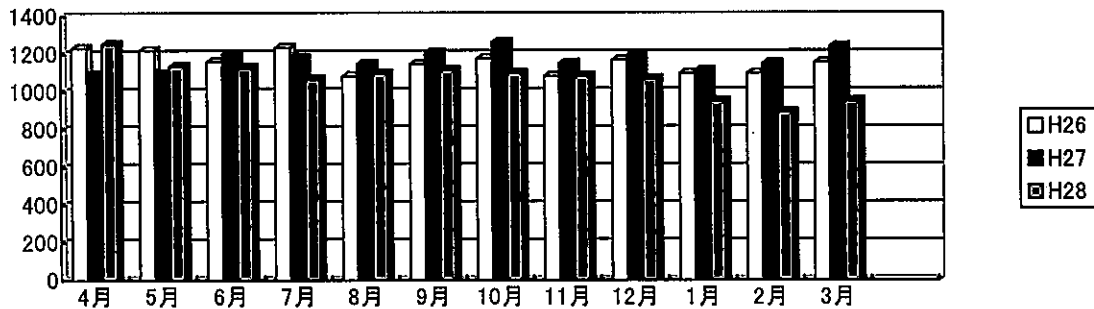
制度改正後、1ケアの派遣時間が短時間となってきたため前年比で減少傾向になった。又、短期間での派遣が多く安定した時間数の確保が難しく総時間も減少した。

派遣実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	身体介護	H26	355	361	321	352	301	311	306	285	299	311	309	352	3863
		H27	323	331	336	296	309	330	341	267	302	255	242	274	3606
		H28	310	234	233	231	238	253	238	229	244	210	193	210	2823
	生活援助	H26	573	548	538	571	471	506	541	506	544	501	493	500	6292
		H27	468	491	571	563	541	582	618	606	567	544	597	626	6774
		H28	636	609	577	543	554	540	546	545	524	455	433	455	6420
予防介護	H26	276	284	268	294	279	302	302	279	303	274	280	290	3431	
	H27	288	267	278	301	275	284	292	271	309	290	298	322	3475	
	H28	277	381	357	273	288	303	304	295	288	272	257	272	3567	
自費	H26	29	29	35	19	34	28	30	15	24	14	16	16	289	
	H27	15	11	17	22	25	13	14	10	22	25	14	19	207	
	H28	31	14	25	21	17	20	13	15	14	15	10	15	210	
合計	H26	1232	1221	1161	1235	1084	1147	1178	1084	1169	1099	1098	1306	13864	
	H27	1093	1099	1202	1181	1149	1209	1265	1152	1198	1114	1150	1241	14062	
	H28	1253	1137	1128	1067	1096	1117	1100	1083	1070	951	893	951	13020	

制度改正後、重介護（身体介護）は短期間で終了するケースが多く、派遣時間数が不安定となった。それに反し要支援や軽介護（生活援助）の増加が著しかった。

月別の総派遣時間数



## ヘルパー会議・学習会等

### H28年

- |     |        |  |
|-----|--------|--|
| 第1回 | 5月27日  | 食事介助について（嚥下困難介護マニュアル）                          |
| 第2回 | 7月28日  | ヘルパーが行える行為について（老計第10号）                         |
| 第3回 | 10月13日 | 精神疾患・認知症を抱える利用者との関わり、ケアについて<br>（ヘルパー部会：外部講師研修） |
| 第4回 | 11月28日 | 福祉用具の「ひやりはっと」をサービスに活かそう                        |
| 第5回 | 12月2日  | 口腔ケアと誤嚥防止・経口摂取継続について<br>（ヘルパー部会：外部講師研修）        |

### H29年

- |     |       |                                      |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 第6回 | 1月24日 | 総合事業（介護予防・日常生活総合事業）について              |
| その他 | 1月30日 | ノーリフト持ち上げない介護<br>（ヘルパー部会、訪問看護部会共同開催） |

平成 28 年度事業報告	シャローム本天沼	課長： 望月 太敦
--------------	----------	-----------

部門職員数 (平成 29 年 3 月 31 日 現在)

課長 1 名 (兼務)	主任 0 名	副主任 0 名	常勤 4 名	非常勤 9 名	合計 14 名
----------------	--------	---------	--------	---------	---------

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

### < 実施計画 >

#### 1. 本人と共にを行う自立支援に向けたサービスの質の向上に取り組む

生活の主体者は入居者であることを心がけ、一人ひとりの自己決定を尊重することを第一に支援を行った。グループホームで必要となる生活する上での活動は、入居者の能力を引き出す関わりだけでなく、その日の体調を見極め、アパートの共用部分の清掃も声を掛け一緒に行い、スタッフで連携をとりながら支援を行うことができた。日常の買い物については、一人ひとりの歩くことができる距離に応じて分担した。毎日の買い物は地域の人とのつながりを感じる機会や自分ができることの実感できる時間となっている。また、買い物の際は、お金の支払いや食材の調理方法などをお店の方と話す機会をつくり、馴染みの関係を築けるよう支援した。

入居者の健康面では通年を通して協力病院である東京衛生病院及び東京衛生病院訪問看護ステーションと東京衛生病院附属歯科クリニックと連携をとり健康管理に努めた。今年度は6月に認知症の症状による服薬調整のための長期入院はあったが、体調不良による入院はない一年となった。日頃から医療機関との連携が上手くとれたことにより、入居者の体調不良など早期に発見し、相談や対応ができた成果といえる。

#### 2. 地域とのつながりを通して地域福祉の充実に向けた取り組みを行う

毎年開催している8月の夏祭りでは59名の地域からの来場者があった。来場者アンケートの中では、55名の方がシャローム本天沼を知っていると回答した。3年前に同行事で実施したアンケートと比べ認知度が大きく上がった部分でいえば、地域とつながりを通した行事企画の効果が出てきていると考えられる。また、餅つきについては、12月に杉並事業のわかぼと合同での開催として実施した。

家族介護教室は年2回開催し述べ12名の地域の方の参加があった。オレンジカフェは定期開催し、毎回の参加者数は少ないものの、月1回ホームで活動しているボランティアの方々の参加やホーム近くの地域住民の参加があり、支援の場として定着しつつある。ホームが行う地域に向けた取り組みについて、支援を必要としている方に情報が届いているのかという広報面での課題は残るものの、区内には介護者が集う場が増えてきており、単純に参加者を増やすのではなく、本天沼地区の方に必要とされる開催方法について考えていく必要がある。

また、本天沼児童館との交流会は年2回実施した。今年度もこどもと入居者の共同作品を製作し、集会所祭りに出展することができた。作品作りについては毎年開催することができており、児童館に通う子どもたちと入居者との関係の構築につながってきている。

#### 3. 人材育成とスタッフの働きやすい環境整備を行う

グループホームに求められる人材育成に向け、スタッフ共通のチェックシートを基に、支援者としての姿勢等を互いに確認した。事業所に必要な研修については、管理者が講師となっており、研修欠席者については、資料の配布だけでなく個別に研修会の内容を伝えた。外部研修については、人員体制のこともあり参加できる機会が限られてしまっているが、他の事業所のスタッフとの情報を共有できる機会にもつながるため、積極的に参加できる環境をつくっていく必要がある。

感染症や食中毒については通年を通して予防に努め、感染症等の発症はなく一年を終えることができた。日頃の標準予防策への意識を高めたことが、発症者を出さないことにつながっている。また、ヒヤリハット報告に至る前の気づきについては、毎日の申し送りの中でスタッフ間の共有を行った。ヒヤリハット事例については、その日の勤務者で予防策を考えて対応するだけでなく、毎月のミーティングの中で振り返り、現場の支援の向上につながるよう検討の機会をつくることができた。

環境整備に向けては、ホーム内のスペースの関係で予備室の整備は進めることができなかったが、スタッフの働きやすい環境整備として老朽化した事務所の椅子を新しくし、夜勤の際には勤務者が休息できるようなスペースを整備した。

#### 4. 予算を基にした計画的な事業を実施する

年間の稼働率は目標の97%を超え98%となった。これは、東京衛生病院及び東京衛生病院訪問看護ステーションと連携をとり入居者の日頃の健康管理に努めたことが成果といえる。入院の際にも、可能な限り入院日数が減少となるように入院先医療連携室との連携を図ることができた。また、今年度は退去者がいなかったことも高い稼働率に影響した。

サービス提供体制強化加算Ⅰ（イ）の取得について、有資格者の割合が増えたことで申請できる体制となったが、4月と9月に管理者変更の影響により、現場のスタッフの体制が不安定な時期もあり、新規加算の申請ができない状況であった。そのため、加算変更については、次年度より申請することとなった。尚、行事費用や研修費用は予算内で適切に管理した。

### 部門業務資料

#### 1. 入居状況（平成29年3月末）

○要介護度： 要介護1：3名 要介護2：3名 要介護3：1名 要介護4：1名 要介護5：1名

平均要介護度：2.3

○利用者：9名

○退居者：0名

○入居者：0名

○性別：男性2名 女性7名

○年齢：60代：1名 70代：1名 80代：5名 90代：2名

平均年齢 84歳

#### 2. 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総利用床数	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3285
実利用床数	262	279	242	251	279	270	279	270	279	279	252	279	3221
空き床数	8	0	28	28	0	0	0	0	0	0	0	0	64
稼働率(%)	97.0	100	89.6	90.0	100	100	100	100	100	100	100	100	

#### 3. 活動・行事・外出等

月	内 容
4月	すぎなみ正吉苑野点会へ出席
5月	菖蒲湯、母の日、自治会草刈、
6月	本天沼児童館交流会の実施、父の日
7月	ほんあま縁日へ参加、沓掛まつりへ参加
8月	シャローム本天沼夏祭りの実施
9月	敬老の日
10月	自治会草刈、本天沼集会所まつりへ参加、児童館ハロウィンイベント受け入れ
11月	シャローム祭参加、開設9周年行事、家族介護教室開催
12月	杉並重心わかぼと合同餅つき、クリスマス会
1月	初詣
2月	節分
3月	ひな祭り

※オレンジカフェ（毎月第一水曜日 14：00～16：00）

※その他、誕生会、日常の外出を実施の他、ボランティアによるオカリナ演奏、南京玉すだれ、書道、体操、お話の会演奏を実施する。

運営推進会議 5月、7月、9月、11月、1月、3月の6回開催

#### 4. 実習等の受け入れ状況

○東京都立多摩職業能力開発センター八王子校の見学実習を受け入れる。（2回 延 28名）

#### 5. 第三者評価結果について

（評価機関：特定非営利活動法人 福祉情報パートナー21）

## 全体の評価講評

### 特に良いと思う点

利用者の自立に向けた支援は、情報の把握、プラン作成、モニタリング、支援記録の一連の流れを確保し利用者本位の支援が提供できています

利用者の情報は思い・希望や困っていることを聴いて職員が感じている課題・希望を抽出しています。そのうえで必要なサービスを構築しケアを振り分けた支援の関わりを明確にしています。これらを基にケアプランの原案を作成し、入居後に変更がある場合には変更した本プランを作成し6ヶ月ごとに見直しています。モニタリングは3ヶ月ごとにサービスの適切性、短期目標の達成度、ケアプランの評価を行いケアプランの充実を図っています。支援にあたり目標と各目標ごとのサービス内容を記載したケース記録でケアプランの内容を確認しています。

職員は利用者が支援を受けていると感じさせないように関わり、利用者の自分らしく生き生きとした生活者としての暮らしを支援しています

職員は日々利用者が支援を受けていると感じさせないように関わり、利用者が「いいえ」とはっきり意思表示できる雰囲気作りに取り組み、自分らしく生き生きとした生活者としての暮らしを支援しています。また、今まで生活の中でやってきたことや日常生活動作においては、利用者が自身の身体を使って行うことが機能維持につながると考え、買い物に出かけたり、調理、片づけ、庭での洗濯干しなどの立ち仕事も職員のさりげない見守りや声かけの中で行い、外出時も意図的に身体を使う場面を作り利用者の体力や心身機能の維持を図っています。

地域とつながりや地域福祉の充実に向けてグループホームだからこそできる役割を発揮できるよう取り組んでいます

運営推進会議では区営アパートの住民代表や児童館の代表者も交え地域との情報や意見交換を行い、ホームや地域での行事にお互いが参加するだけでなく、児童館の子どもたちがホームに来所して共同で作品を作り区民集会所まつりで展示するなど、地域活動としての広がりを見せています。家族介護教室やオレンジカフェの開催も継続し、ホームが利用者とともに認知症の当事者だけではなく家族や地域住民が気軽に集える場として認知され、地域とつながりや地域福祉の充実に向けてグループホームとしての役割を発揮できるよう取り組んでいます。

### さらなる改善が望まれる点

年1度見直したマニュアルは、誰が見ても改定されたことがわかる表記をすることが期待されます

手順マニュアルの見直しを事業計画にあげて、年に一度恒例にして見直しを行い、必要時応じて追記をしたり削除して現状に合った内容に改定しています。特に業務マニュアルは6ヶ月に1度状況に応じ活用しやすいマニュアルに見直しています。しかしマニュアルは改定なのか新規作成なのかを確認することができま

せん。今後は誰が見ても改訂版であることがわかるような表記をすることが望まれます。見直したマニュアルへの活用も十分とは言えない現状が職員アンケートからうかがえますので、今後の活かし方の工夫が期待されます。

地域を拠点としているホームは、利用希望者である待機者の現状把握に努め、定期的に聞き取りを行うシステムを作ることが期待されます

開設9年が経過しホームの知名度が浸透してきています。地域を拠点としているホームには、利用希望者から多くの問い合わせがあり、見学を薦めています。本人の同席や家族の日程に合わせ、ホーム長・管理者・ケアマネジャーが対応し「施設見学・入居申込受付表」に記録し待機者として管理しています。しかし、今までの待機者の整理はされておらず、利用希望者の現状把握に努めることが望まれます。また、今後は地域の現状を知るためにも、定期的に待機者の様子の聞き取りを行うシステムを作ることが期待されます。

看取りへの対応として医療機関との連携と共に、職員の看取りに関する技術向上に向けた具体的な研修などさらなるスキルアップが望まれます

看取りに関する指針で「看取り介護を希望される利用者と家族の支援を最後の時点まで継続することが基本」と定義し、基本理念では「安らかな死を迎えられる様、全人的ケアを提供する」としています。家族からの「ここ(ホーム)で見送りたい」との意向を受けて、この1年間で2名の利用者をホームで看取りました。今後も看取りを希望する家族が増える傾向にあり、協力病院や訪問診療、訪問看護などとの連携を強化していますが、今後は他の利用者への配慮とともに職員の看取りに関する技術向上に向けた具体的な研修など更なるスキルアップが望まれます。

平成28年度事業報告	グループホーム白山	課長 : 平尾 明美
------------	-----------	------------

部門職員数 (平成28年度3月31日 現在)

課長 1名	主任 0名	副主任 0名	常勤 2名 非常勤 7名	合計 10名
-------	-------	--------	-----------------	--------

## 1. 平成28年度「事業計画」の達成状況

### 1) サービスの質の向上

年6回の勉強会を実施し、接遇・マナーの向上に取り組んできた。また、認知症の基礎知識の確認やレクリエーションについてなど利用者の生活の質の向上につながる勉強会の実施により、職員各自があらためてホームでの役割について考え、自覚する機会となった。

5月	事例検討	11月	職業倫理について
7月	認知症について	1月	接遇
9月	レクリエーションについて	3月	介護機器に関する知識

### 2) 効果的なモニタリングの実施

利用者の個々の記録は介護計画と連動するようミーティング等で周知し取り組んだ。必要な情報を分かりやすく記録することで、記録からモニタリングへの連動も機能し始めている。帳票類の見直し等は次年度の継続課題としたい。

### 3) 環境の整備

グループホーム白山独自のひやりハットを集め、環境の整備や対策に努めた。特に玄関や食堂居間等の共用スペースでは、ひやりハットの情報が多数集まった。対策の検討や対応を即日・即時に行う事でリスクの低下を実現できた。

### 4) 地域との連携

納涼祭や敬老会などの行事実施の際にはボランティアの力を借り、利用者への楽しみや地域交流の場を提供できた。

毎年恒例となってきた「ほたるの会」を実施して下さる地域の方もおり、利用者とは馴染みの関係になってきた。

## 2. 部門業務資料

### 1) 入居状況

- ・退所 1名・入所 2名
- ・男性 3名 女性 6名
- ・要介護度 要介護1 2名、 要介護2 3名、 要介護3 2名、 要介護4 1名  
要介護5 1名
- 平均要介護度：2.5
- ・年齢69歳～93歳 平均年齢 85.7歳

### 2) 定期的な活動

- 第4金曜日 ミュージックセラピー
- 2か月に1度 自治会の環境美化の日
- 2か月に1度 運営推進会議
- 家族会 1年に1回 総会
- 近隣市地域密着型サービス連絡会 3カ月に1度
- ・月2回 滝山クリニックの医師による往診。 訪問看護 毎週月曜日
- ・健康診断 年に1度 血液検査 半年に1度



### 3. 活動・行事・外出等

4月	お花見
5月	菖蒲湯 母の日 工作会
6月	父の日 ほたるの会 外食プログラム
7月	七夕 誕生会
8月	工作会 納涼祭
9月	敬老会 家族会総会
10月	誕生会
11月	シャローム祭 誕生会 夜間避難訓練
12月	クリスマス会 誕生会 納会 工作会
1月	お正月 誕生会 初詣 高齢者作品展
2月	節分
3月	ひなまつり 誕生会 工作会 避難訓練

※社協 社会貢献型後見人研修 施設見学 3月24日 5名

### 4. 稼働実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	8	9	100
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総利用床数	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3,285
実利用床数	240	248	240	248	248	235	248	260	251	245	196	231	2890
空き床数	30	31	30	31	30	35	31	10	28	34	56	36	382
稼働率	88.9%	88.9%	88.9%	88.9%	88.9%	87%	88.9%	96.3%	90.0%	87.8%	77.8%	82.8%	87.9%

※退居者 平成29年2月 1名

入居者 平成28年11月 1名 平成29年3月 1名

※空室の期間が長くなった背景として、入居申請の減少・入居申請者が入居を希望されない・管理者の体調不良による不在期間があった事が挙げられる。

### 平成28年度第三者評価 全体の評価講評

#### 特に良いと思う点

1 利用者一人ひとりが「自分の思う生活を継続してもらう」ことを個人の尊厳として捉え、生活歴や思いを把握した支援を実践しています。

利用者一人ひとりが「自分の思う生活を継続してもらう」ことを個人の尊厳として捉え、本人の背景を思い発言するよう支援しています。利用者が希望する事や思いを重視し常に利用者が主体となった生活を支援の基本としています。共同生活を送るうえで利用者から約束事や役割分担を決めてほしいとの要望で、「住民会議」を開催し、お花見の時期、新聞の取り扱いなど円滑となるよう話し合っています。

また、年初めには今年の抱負を聴き利用者の思いを大切に忘れぬ様書きだし取り決めた役割分担も書き出しています。

2 「自分の身の周りの事は基本的に自分です」を基本に、できる事の支援で能力維持確保に向け職員一丸で取り組んでいます。

入居前の面接で利用者・家族からの情報は、今までの生活歴やADLを詳細に聴き取り、何が出来るかを把握しています。利用者の中にはクリーニング店や理髪店、買い物に行き自分の事は自身で実践しています。食事作りは冷蔵庫にある材料で何を作るかを聴き、職員と調理に関われる利用者とともに作っています。材料を洗い包丁を使い切ったり盛り付けや配膳を行い、食後の食器洗い・拭くなどできることで能力の維持に取り組み、夕食事のみそ汁のだしは煮干しでだしを取り、手作りのぬか床で漬けた漬け物を食卓に出し、家庭的な雰囲気作りに心がけています。

3 地域資源を活用して、1か月に1度は行事を行ったり外出を計画し、し気に応じた催しで季節感を味わっています。

近隣には保育園や小学校、桜の名勝で有名な公園などがあるため樹木が多く緑豊かな地域です。1か月に1度は行事や外出する事を心がけ社会資源を活かし、花見・外食・ドライブ外出・夏祭り・クリスマス会など計画を立て実施しています。行事では家族や地域のボランティアの音楽や踊りも披露され、一緒に歌い交流にもなっています。楽しい外食には「何を食べに行くか」を聴いて、地域のレストランやコーヒーショップなどに少人数で出かけています。四季折々の花見などにも、近隣の名所にドライブしながら出かけ四季を味わっています。

さらなる改善が望まれる点

1 介護計画を計画・実行・評価・改善の確立に向けモニタリング見直しに着手し、実現により介護計画に活かされることが期待されます。

介護計画に応じた支援の適切性の確認を行うモニタリングは、作成マニュアルで3か月に1度の見直しをケース会議で実施することを取り決めています。モニタリングは介護計画の達成できる目標を設定し、サービスの適切性や達成度を確認し、評価を行う様な書式になっています。その際に本人・家族の満足度を把握することとしていますが、現在のPDCA（計画→実行→評価→改善）サイクルの確立に向けたモニタリングの見直しを行い、考察（状況の変化・支援効果・新たな課題）で介護計画に活かされることが期待されます。

2 居室で閉じこもりがちな利用者には、生活空間を広げるための支援や、今の生活維持を保つために機能低下予防が期待されます。

日常生活の中で、食事作り・洗濯・洗濯物たたみ・買い物・散歩とできる利用者は積極的に関わり健康のバロメーターにもなっています。庭の一部を利用して野菜を作り、水やりや草むしりなど生活リハビリになっており、おやつ前に軽い体操を毎日実施することで気分転換を図っています。大勢の中での生活が難しく、居室に閉じこもりがちな利用者のために、生活空間を広げる支援の必要性が感じられます。さらに身の回りの事は自分でできる生活を継続するために、体力や下肢機能低下予防で維持ができ、その人らしい生活への支援が期待されます。

平成 28 年度 事業報告	東久留米市中部地域包括支援センター	課長：一木 誠
部門職員数（平成 29 年 3 月 31 日 現在）		
課長 1 名 （相談員兼務）	相談員 4 名 介護支援専門員 2 名 事務員 1 名	常勤 6 名 非常勤 2 名 総合計 8 名

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

29 年 4 月スタートの「介護予防・日常生活支援総合事業」に向けて、市役所と協力をしながら準備を進めてきた。地域との連携、社会資源の発掘や構築をさらに進め、ケアマネージャーが様々なサービスを活用して、元気に生活を送ることができるようなプラン作成の支援をしてきた。

また認知症高齢者の住みやすい地域を目指し、医療機関との連携、認知症に関する啓発活動、居場所作り、みまもりについて、会議などで検討をしてきた。

29 年度さらにこれらの事業が重要となるため、担当職員同士での連携を深めていけるようにしていく。

### (1) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

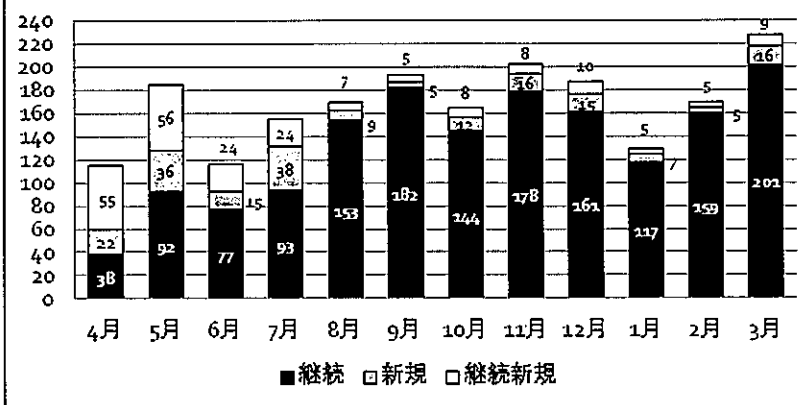
- 28 年度のケアマネ地区懇談会では、第二層協議体会議の報告や、事例検討会を行い、ケアマネのスキル向上を目指した。また年度末には、市内ケアマネ向けに総合事業に向けた研修会を実施した。
- 市内主任ケアマネ連絡会の人権擁護部会と協力して、高齢者の権利擁護についてケアマネ向けの研修会を実施した。
- 市役所で市内の居宅介護支援事業所を対象に、ケアプランチェックを毎月実施した。包括からは主任介護支援専門員の出席と、対象のプランに対するコメントを行なった。
- 困難ケース、医療ニーズの高いケースについては、ケアマネや病院の相談室、白十字訪問看護ステーションの在宅療養相談窓口と連携を取って、在宅生活の支援を行った。また医療と介護の連携会議に出席をした。

ケアマネ地区懇談会	2 回
ケアマネ連絡会	4 回
主任ケアマネ連絡会	12 回
ケアプランチェック	12 回
医療連携との情報交換会	2 回
虐待事例検討会	4 回

### (2) 総合相談業務

- 初期相談窓口として、相談者に対してサービスの提案だけでなく、生活全般のニーズ等をしっかりと把握したうえで、支援するように心掛けた。予防プランの件数が増え、細やかな対応が難しくなっている。

## 月別延べ相談件数



相談方法	延べ件数
電話	1,017
来所	152
訪問	714
文書	9
その他	115
合計	2,007

- ◇ 時間外対応：1件（総合相談件数に含む）
- ◇ 介護保険申請代行：5件
- ◇ 関係機関連絡件数：1,294件（総合相談件数に含まない）

### 2-1) 地域ネットワーク活動

- 29年度の新しい総合事業の開始に向け、事業に関して、市役所、リハビリ専門職と会議を行ってきた。地域の様々な資源の発掘や構築を検討してきた。
- 体操自主サークルにリハビリ専門職と包括で見学を行い、連携を取れるようにしてきた。
- 総合事業における多様なサービスの担い手を養成するために、東久留米市元気高齢者地域活躍推進事業が始まった。市役所、リハビリ専門職と生活支援コーディネーターで、講義内容を検討したり、講義を行ったりしている。
- 28年度より生活支援コーディネーターが配属され、昨年度まで行われていた地域ケア会議は、第二層協議体会議と名称が変わった。生活支援コーディネーターが日頃から地域と関わりを持ち、会議で地域の課題について検討をした。
- 第二層協議体会議の第1回は中央町地区を中心に介護予防について、第2回は団地関係者との見守りについて、第3回は中部地区の民生委員やみまもり協力員の方々と高齢者のみまもりについて検討を行った。
- 第二層協議体を通じて、中央町の有料老人ホーム イリーゼの協力で体操サークルの立ち上げをすることができた。

### 2-2) みまもりネットワーク

- みまもりネットワーク連絡会は、28年度から第二層協議体に組み入れられ、民生委員、みまもり協力員の方と、高齢者の見守り、現状について話し合いを行った。
- みまもりネットワーク事業のみまもり対象者が、なかなか増えない状況である。一人暮らし高齢者が増えていく中で、サービスの活用について啓発活動を含めて検討していく。

みまもり対象者 (H28年3月31日時点)	8名
みまもり延べ回数	204回
協力員連絡会開催	2回
対象者以外の気になる方のみまもり延べ回数	7回
地域の方からの通報	7回
関係機関からの通報	7回

### (3) 権利擁護業務

- 虐待・困難ケースにおいて、本人や家族の精神疾患、金銭問題、病気等の問題があり、多機関との協力が必要となっている。傾向としては、施設入所など家族との分離を図っていくケースが増えている。地域権利擁護・成年後見対応も必要で、社会福祉協議会と協力しながら、支援を行ってきた。

【延べ相談件数/人数】(初回人数)

権利擁護	虐待	困難	地域権利	成年後見
23年度	306件/17人(9)	340件/29人(22)	6件	22件
24年度	469件/25人(14)	371件/26人(14)	11件	107件
25年度	473件/34人(20)	546件/24人(15)	12件	52件
26年度	531件/29人(12)	159件/4人(1)	5件	10件
27年度	599件/27人(10)	104件/5人(0)	3件	10件
28年度	129件/58人(2)	30件/10人(0)	2件	12件

### (4) 特定高齢者の介護予防マネジメント業務

- 28年度から、要支援の認定を受けた方も対象となっており、元気になって、介護保険卒業を目指せるようなシステムにできるかどうか検討していくことになった。
- 市報で一般公募をし、お元気な方も利用できるようにした。
- 二次予防事業終了後、継続的に介護予防の取り組みができるように、地域包括支援センター関連のサークル等にお誘いをしている。

新規プラン作成件数	2件
相談・面接等延べ回数	35回
特定高齢者を地域との交流につなげた	7回

### (5) 認知症ケアの推進

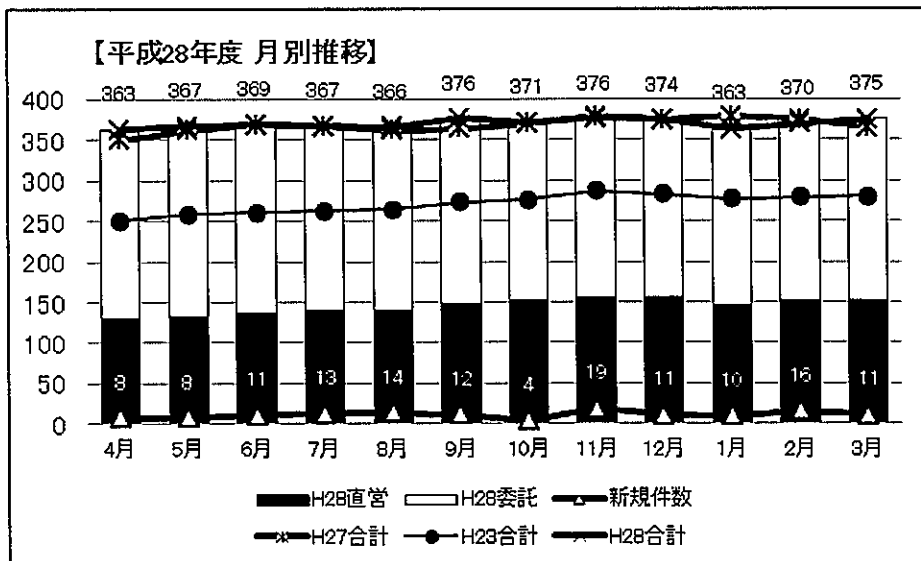
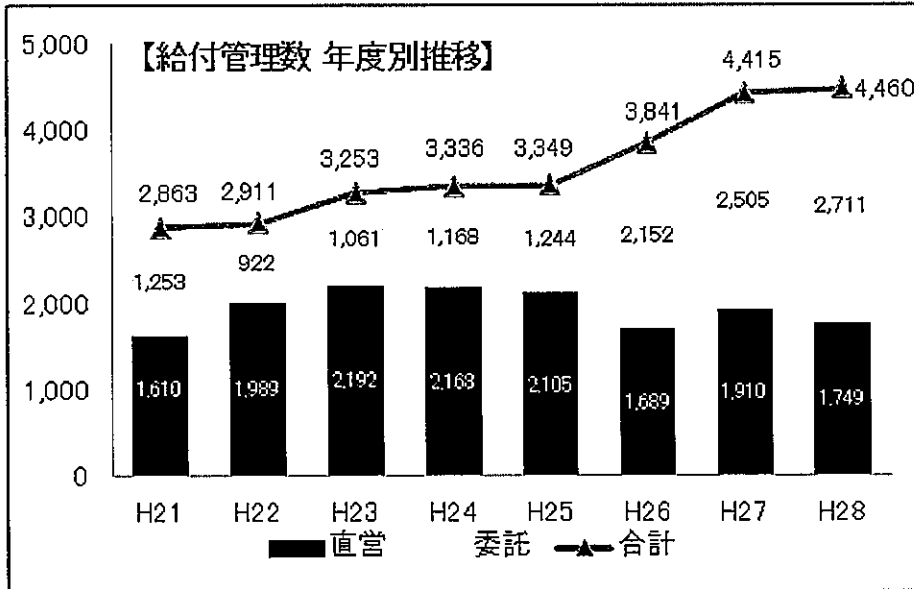
- 28年度から認知症地域支援推進員が配属され、認知症疾患医療センターを含む医療機関や、介護サービス、地域の支援機関との連携を図り、認知症高齢者やその家族を支援する相談業務を開始した。認知症疾患医療センターのアウトリーチ事業、市の認知症施策の推進を行ってきた。
- 認知症家族会を2か月ごとに開催し、家族の安らぎの場となっている。食事会、自宅でのミニサロン開催といった活動も行った。
- 認知症サポーター養成講座は、中部包括主催を1回、その他イトーヨーカ堂、セブンイレブン、図書館、銀行向けに講座を開催した。
- 認知症サポーターフォローアップ講座を2回開催した。認知症高齢者への対応方法や、地域のボランティア活動について、東久留米市社協ボランティアコーディネーターに講義をお願いした。
- 幸町団地集会所で、おおむね2か月に1回、認知症カフェを、法人と共同で開催してきた。広報活動をあまり行ってこなかったため、参加者は固定しているが、29年度の本格的な開催に向けて準備を進めていく。

認知症家族会の活動回数	6回
参加者延べ人数	38名
新規参加者数	10名
家族会に関する相談延べ件数	0件
認知症サポーター養成講座開催回数	6回(他、メイト協力 5回)
認知症サポーターフォローアップ講座	2回

(6) 指定介護予防支援事業

●年々介護保険の申請者が増加している。予防プランの依頼も増え、包括職員だけで対応することが大きな負担となっている。居宅介護支援事業所へプラン作成を委託するケースも増えているが、事業所探しに難航することも大きな負担となっている。

◇ 平成27年度：前年比+574件（139万円増収）、新規契約167件



## 2. 部門業務資料

### (1) 任意事業（東久留米市独自の委託事業）

生活支援事業	支援調査票作成	0件
	モニタリング	3件
	住宅改修理由書作成	0件
	福祉用具購入理由書作成	0
	住改・福祉用具に関する相談	34回

### (2) 会議一覧

項目	会議名	回数
ケアマネ関係	地域ケアマネ懇談会開催	2
	ケアマネ連絡会	6
	主任ケアマネ連絡会	12
	ピア事例検討会	3
	ケアプランチェック	13
虐待関連	コア会議	2
	虐待事例検討会	4
認知症関連	グループホーム運営推進会議	6
	キャラバンメイト連絡会	1
	サポーターフォローアップ講座開催	2
	サポーター養成講座開催（メイト協力回数）	6(5)
	認知症ケア地域ネットワーク検討委員会	1
	認知症家族会開催	6
在支・包括支援センター関連	包括・在支センター長会議	11
	包括保健師看護師連絡会	6
	包括社会福祉士連絡会	11
	脳トレ交流会	1
	老化予防講演会	1
総合事業関連	生活支援コーディネーター連絡会	10
	C型モデル振り返り	1
	ケアマネへの総合事業連絡会	1
	「新しい総合事業」に向けての介護予防通所介護・介護予防訪問介護、もでるモデル事業振り返り	1
	総合事業の指定に関する説明会	1
	総合事業関連会議	12
	その他	第二層協議体開催
成年後見推進機関 初期相談ネットワーク連絡会、運営委員会	2	
成年後見事例検討会	1	
小規模多機能ゆいまある運営推進会議	1	
医療連携との情報交換会	2	

	認知症地域支援推進員連絡会	11
東京都社協	東社協センター分科会	1

(3) 研修一覧

項目	内容	回数
地域包括支援センター職員向け	包括現任者研修	0
	包括初任者研修	4
虐待関係	虐待対応研修（基礎）東京都福祉保健財団 9/1、2	2
	虐待対応研修（応用）	0
医療・介護関係	介護予防研修（東京都介護予防推進会議）	2
権利擁護	人権研修会 社協協働「成年後見制度勉強会」	1
	セルフネグレクトの見極めのポイントと働きかけ（主マネ主催）	1
認知症	東京都 認知症支援コーディネーター	1
	認知症初期集中支援チーム員研修	5
	認知症対応力向上研修	2
	今こそ認知症ケアを考え直す(認知症の人がディサービスに通うという事)	1
	ウォーキング講演会	1
他	在宅ケアネット講演会	1
	栄養講演会	1

(4) 実習生受け入れ

種別	学校名	実人数	延べ回数
看護師	国立看護大学	8	20
社会福祉士	社会事業大学	2	3
	武蔵野大学	1	2
	日本福祉大学	1	2
実習合計		12名	27回



平成 28 年度事業報告	杉並区立重症心身障害児 通所施設わかば	課長： 望月 太敦
--------------	------------------------	-----------

部門職員数（平成 29 年 3 月 31 日 現在）

課長 1 名 (兼務)	主任 0 名	副主任 1 名	常勤 2 名	非常勤 12 名	合計 16 名
----------------	--------	---------	--------	----------	---------

## 1. 平成 28 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 関係機関との連携を密にし、一人ひとりのこどものニーズに沿った療育を行う

#### 1) 医療と福祉の連携による療育に取り組む

一人ひとりのこどもの主治医と連携をとり、医療的ケアが必要であれば主治医の指示の下に看護師が実施し、また、理学療法や言語聴覚療法についても指示を受け個別リハビリテーションについて実施した。保護者の母体保護期間による個別送迎の必要性についても事業所内で調整し、可能な限り通園が途切れることが無いよう個別ニーズに沿った対応を実施した。安全に安心して通園できる環境としては、東京衛生病院の嘱託医と連携をとり、月 1 回の訪問や通園児全員を対象とした内科健診を実施することができた。

個別支援計画作成については保育士が中心となって土台となる案を作成後に多職種で作成した。開設から一年が経ち、相談支援事業所との連携のほか個別支援計画に関する一連のサイクルは定着してきているが、日々の療育準備等がある中で作成に関わる時間調整が課題であり、個別支援計画の会議をどのように開催していくのがよいのか検討していくこととなった。

#### 2) 関係機関と連携をとり支援体制を構築する

杉並区内の児童発達支援事業所の連絡会や杉並区内の訪問に関わる事業所の事例検討会に担当者が参加した。事業所間の連絡会の参加は療育を担当するスタッフ間の横のつながりを構築することにつながり、個別のケースで判断に迷う時など、必要な場合に相談できる関係性が構築できてきている。また、今年度より東京都社会福祉協議会の障害児福祉部会に加入した。障害児福祉部会の中では、現場のスタッフ同士がつながりあう機会は今の時点ではないものの、都内の事業所との連絡体制構築に向けて一歩進むことができた。

#### 3) 保護者の思いを大切にされた支援を行う

補装具作製の装具診について、担当の理学療法士が個別に訪問し相談や助言を行い、個別のニーズに対応した。就学に向けては、特別支援学校のコーディネーターや教育委員会と連携を取り、対象児に必要な就学支援を実施した。就学前の相談の部分については、わかばからの就学ケースが少ない事から十分に対応できる状況ではないが、保護者の相談に応え必要な関係機関と調整していくことで、ケース数の少なさを補うことに努めた。

保護者同士の交流の機会について保護者会を 2 回開催した。保護者会の中では療育に関する説明だけでなく保護者同士がつながる機会となっている。通常の親子通園の際にも互いの情報を交換する場となっており、保護者により制度等の情報量も違いがあるが、個別の状況に応じて必要な情報を提供できるように支援した。

### 2. 重症心身障害児を対象とした児童発達支援事業所に求められる人材育成を行う

#### 1) 医療と福祉の視点を深める人材育成を行う

職員間のコミュニケーションを大切にし、日々の療育後の振り返りや行事準備等、多職種協働で実施した。会議についても職種にとらわれず皆で考える時間を持ち、療育の中での役割も職種に限らず同じようにこどもの担当をもつことで医療職と福祉職の互いの役割の理解が深まっている。また、スタッフ共通のチェックシートを活用し、各自がわかばでの役割や自分の目標としていることを意識して一年を確認することを実施した。外部研修については事業所の人員配置上、多くの時間を取るができなかったため、外部研修受講ができるような体制に向けて課題となった。

2) 事故防止・感染症防止に努める

感染症等の対策として、手洗い等の標準予防策だけでなく日々の療育後の清掃を重点的に行い、感染症発症は無く一年を過ごすことができた。

ヒヤリハット報告に至る前の気づきは毎日の療育後に行われる振り返りにて共有した。共有した気づきは日誌に残し、勤務していないスタッフとも共有できるようにした。雇用形態により月2回程度のスタッフもいるため、通園児の情報共有が難しい部分もあるが、担当者間で引継に関するノートを活用し、勤務日数が少ないスタッフにも情報が届くように実施した。

3) 働きやすい環境整備を行う

事務所内の環境整備として療育に必要な準備ができる作業スペースを確保した。また、通園児が増えたことで書類保管場所が足りなくなったため、必要な書庫を整備することを行った。職員の休憩室についてはスペースがなく整備ができていない状況のため、次年度の課題となった。

3. 地域とのつながりを通して地域福祉の充実に取り組む

1) 行事企画を通して地域住民との交流の機会をつくり、重症心身障害児児童発達支援事業所の正しい理解につながるような働きかけに取り組む

わかば祭り(夏祭り)の案内を通して、同敷地内にある保育室や幼稚園との交流が深まり、幼稚園でのコンサートに招待されたりとする関係となった。年末の餅つき行事においても保育室や幼稚園から多数の園児や保護者が来所し、障害を持つ子も持たない子も一緒に遊べる空間ができた。こどもたちは交流を通して障害を理解していくことから、遊びを通じた交流の機会をつくることで理解を深めていくことにつながることであるため、次年度も継続して交流につながる行事を企画していく必要がある。

2) 地域の関係機関との交流を通して重症心身障害児児童発達支援事業所の役割の発揮に努める

天沼中学校区地域教育推進協議会に加入し、地域の関係機関と連携が取れる体制を構築した。杉並区青少年委員からの紹介のもと1名の小学生のボランティアを受け入れることができた。

3) 同敷地(旧若杉小)内にある保育室及び私立幼稚園と連携し、地域福祉につながる企画を試みる

非常災害対策として、保育室や幼稚園と合同の防災訓練を実施した。旧若杉小は一時避難所に指定されている事から、近隣の民間保育園等からの避難も想定されるため、近隣からの避難者が来た場合も検討していく必要がある。

2. 部門業務資料

1. 通園状況 (平成29年3月末)

○登録児 : 14名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
重心児	0名	0名	1名	1名	5名	1名	8名
重心児以外	3名	1名	2名	0名	0名	0名	6名

2. 月別利用実績

28年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
営業日数	20	19	22	20	22	20	
登録児数	9	9	9	9	9	11	
延べ通園児数	51	36	49	55	38	54	
内) 単独通園	26	16	22	33	24	28	
内) 親子通園	25	20	27	22	14	26	
稼働率	25.5%	18.9%	22.3%	27.5%	17.3%	27.0%	

28年度実績	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	20	18	19	19	20	22	241
登録児数	11	13	13	13	14	14	
延べ通園児数	56	78	81	72	64	78	712
内) 単独通園	30	35	40	35	34	36	359
内) 親子通園	26	43	41	37	30	42	353
稼働率	28.0%	43.3%	42.6%	37.9%	32.0%	35.5%	

### 3. 個別

28年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
PT 延数	9	7	10	12	9	8	
ST 延数	2	2	2	1	2	1	
個別訪問	0	1	1	1	2	2	

28年度実績	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT 延数	5	11	16	12	15	14	128
ST 延数	2	2	2	2	1	2	21
個別訪問	0	3	0	0	2	1	13

### 4. 活動・行事・外出等

月	内 容
4月	お花見
5月	こいのぼり遊び、父母の日プレゼント製作、土遊び、野菜植え
6月	梅雨遊び
7月	七夕、水遊び、かき氷遊び、わかば祭り
8月	うみ遊び、水族館遊び、スイカ割り
9月	内科健診
10月	運動会、ハロウィン、幼稚園コンサート
11月	遠足、芋ほり遊び、合同防災訓練
12月	餅つき、クリスマス、大掃除遊び
1月	初詣、お正月遊び、書初め
2月	節分、バレンタイン、雪遊び
3月	ひな祭り、卒園式

誕生会：4月・6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月  
 ※通園児の誕生月に実施

## 東京事業所 職員研修参加状況 (外部研修)

No.	研修名	主催者	研修日(期間)	所属部門	研修参加者	
1	多摩小平地区給食研究会 平成27年度第7回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成28年4月15日	1日間	栄養課	矢口春江
2	重度運動障害者水泳の支援者講習会	らっこ支援者の会	平成28年5月21日	1日間	杉並重心わかば	北村千穂、川村敦奈
3	東京都地域密着型協議会 第一回全体定例会	東京都地域密着型協議会 東京都グループホーム協議会	平成28年5月16日	1日間	G日本天沼	堀之内克哉
4	介護福祉士実習指導者講習会	東京都介護福祉会	平成28年8月22日 ~ 平成28年8月31日	4日間	在宅福祉課	山岸清峰、富塚ゆりか
5	28年度栄養管理講習会 第4回「食品衛生の最新情報と食中毒防止」	多摩小平保健所	平成28年6月8日	1日間	栄養課	矢口春江
6	デイサービス4職種合同研修会	東京都社会福祉協議会 センター部会	平成28年6月21日	1日間	在宅福祉課	鷹野屋宏平、片寄純子 榎本マミ、田上泰嗣
7	第14回「ユマニチュード入門コース 研修」	デジタルセンセーション(株) ユマニチュード事業部	平成28年7月23日 ~ 平成28年7月24日	1日間	看護課 生活相談課 生活介護課	武田忠雄、鈴木さやか 鷹野尚子
8	第48回重症心身障害児(者)医療看護 師講習会	心身障害児総合医療療育センター	平成28年9月9日 ~ 平成28年9月11日	3日間	杉並重心わかば	山本順子
9	杉並区児童発達支援事業所交流会	一般社団法人 福祉芸術支援協会	平成28年5月8日	1日間	杉並重心わかば	望月太教、北村千穂 川村敦奈
10	多摩小平地区給食研究会 平成28年度第1回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成28年6月29日	1日間	栄養課	矢口春江
11	平成28年度第1回東京都介護予防推進 進会議	東京都福祉保健局 高齢社会部在宅支援課	平成28年6月22日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
12	28年度栄養管理講習会 第6回「事業継続計画(BCP)策定のし かた第2弾」	多摩小平保健所	平成28年7月15日	1日間	栄養課	矢口春江
13	東京都認知症介護実践者研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	平成28年7月14日 ~ 平成28年8月5日	6日間	G日本天沼	安藤聖哉
14	アクティブ福祉in東京 発表者事前 研修会	東京都社会福祉協議会	平成28年7月20日	1日間	生活介護課	関根萌、渡辺愛香
15	平成28年度市区町村見守り担当者連 絡会	東京都福祉保健局 高齢者対策部	平成28年7月29日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
16	平成28年度東京都介護支援専門員 専 門研修II	特定非営利活動法人 東京都 介護支援専門員研究協議会	平成28年8月2日 ~ 平成28年10月18日	6日間	居宅介護支援課	温井聡子
17	「いま知りたい!現場で役立つ看取 りケア」 ～リレー研修:看取りのあり方、多 職種連携、リスク管理～	東社協 東京都高齢者福祉施 設協議会 職員研修委員会 看護職員研修委員会	平成28年8月2日 ~ 平成28年2月6日	3日間	看護課	武田忠雄、小堺恭子 丸山直美
18	キャリアパス対応生医研修課程で福 祉職員職務階層別研修▷第5回中堅 職員研修	東京都福祉人材センター	平成28年9月13日 ~ 平成28年9月14日	2日間	生活介護課	渡辺愛香、村上謙太郎
19	「安全な移乗介助を行うために!」	東京都社会福祉協議会	平成28年8月29日	1日間	生活介護課	岩崎克己
20	東京都介護支援専門員再研修	公益財団法人東京都福祉保健財 財団 人材養成部 介護人材 養成室 ケアマネ担当	平成28年9月20日 ~ 平成28年11月15日	7日間	生活相談課	平林基
21	介護報酬事務に関する研修会・応用 編	東京都社会福祉協議会	平成28年10月27日	1日間	在宅福祉課	佐々木知子
22	社会福祉施設における安全衛生労務 管理講習会	三鷹労働基準監督署	平成28年9月2日	1日間	栄養課	矢口春江
23	「医療事故と法的責任」 ～法的視点から医療トラブルを考え る～	多摩小平保健所 医療安全推進センター	平成28年9月29日	1日間	看護課 生活相談課	武田忠雄、鈴木さやか
24	平成28年度ケアマネジメントの質の 向上研修会	東京都介護支援専門員研究協 議会	平成28年8月29日	1日間	居宅介護支援課	鎌谷博子
25	平成28年度ケアマネジメントの質の 向上研修会	東京都介護支援専門員研究協 議会	平成28年9月29日	1日間	居宅介護支援課	宮下留美
26	28年度栄養管理講習会 第7回「食からの健康作りシンポ ジウム」	多摩小平保健所	平成28年9月21日	1日間	栄養課	矢口春江
27	国立ハンセン病資料館見学		平成28年9月17日	1日間	生活相談課 生活介護課 看護課	原川昌也、吉田加代 竹山幸江、水登幸恵 丸山直美
28	東京都認知症介護実践者研修	(社)東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター研究室	平成28年10月6日 ~ 平成28年10月28日	6日間	生活介護課	保谷邦彦
29	平成28年度社会福祉事業従事者人権 研修		平成28年10月5日	1日間	生活介護課	水登幸恵、竹山幸江
30	杉並区児童発達支援事業所職員研修 会	一般社団法人 福祉芸術支援協会	平成28年10月9日	1日間	杉並重心わかば	望月太教、北村千穂 川村敦奈
31	高齢者福祉施設に対する食中毒防止 対策衛生講習会	東京都福祉保健局健康安全部 食品監視課	平成28年10月16日	1日間	栄養課	矢口春江
32	第11回 高齢者福祉実践・研究大会 「アクティブ福祉in東京'16」	東京都社会福祉協議会	平成28年9月30日	1日間	管理課 生活介護課 看護課 生活相談課	我謝悟、清水浩二 松田光一、千先稜 若宮和子、関根萌 渡辺愛香、武田忠雄 鈴木さやか
33	平成28年度第2回東京都介護予防推 進会議	東京都福祉保健局 高齢者対策部	平成28年11月21日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江

No.	研修名	主催者	研修日(期間)	所属部門	研修参加者		
34	多摩小平保健所 平成28年 栄養管理講習会	多摩小平保健所	平成28年12月5日	1日間	栄養課	矢口春江	
35	東京都介護支援専門員専門研修1	公益財団法人 総合健康推進財団	平成28年12月19日	～平成29年3月9日	7日間	居宅介護支援課	楠美綾子
36	東京都介護支援専門員更新研修	公益財団法人 東京都福祉保健財団	平成29年1月19日	～平成29年3月15日	6日間	居宅介護支援課	楠美綾子
37	東京都認知症介護実践者研修	江奈福祉社 東京都江奈福祉協議会 東京都福祉人材センター 研空堂	平成29年1月19日	～平成29年2月28日	6日間	生活介護課	森有里
38	ふわりんクルージョン2017 すべての人が輝く地域包括ケア～地域密着で輝く命～	特定非営利活動法人ふわり	平成29年1月28日	1日間	杉並重心わかば	望月太敦	
39	看護師のためのフットケア入門講座(理論と技術)	メディカルセミナーズ	平成29年3月12日	1日間	看護課	丸山直美	
40	生活相談員研修委員会全体会	東京都福祉協議会	平成29年3月17日	1日間	生活相談課	鈴木さやか	
41	多摩小平地区給食研究会 平成28年度第6回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成29年2月27日	1日間	栄養課	矢口春江	
42	平成28年度東京都介護支援専門員研究協議会 第4回大規模研修 時期制度改正に向けてケアマネージャーが取り組むべきこと～関東圏における地域包括ケアシステムの現状とこれから～	東京都介護支援専門員研究協議会	平成29年3月18日	1日間	居宅介護支援課	鎌谷博子、宮下留美	
43	暮らしの場における看取りの為に他職種向け研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部計画課	平成29年3月23日	1日間	居宅介護支援課	鎌谷博子	
44	ノーリフト 持ち上げない看護抱えない介護	東久留米市介護サービス事業者協議会	平成29年1月30日	1日間	生活介護課	積田春貴、渡辺愛香	
45	実習指導者研修(特定分野7日間)	東京都ナースプラザ	平成29年2月7日	～平成29年3月1日	7日間	看護課	大西潔
46	研修		平成29年1月25日	1日間	杉並重心わかば	川村敦奈	
47	研修	心身障害児総合医療療育センター	平成28年4月27日	1日間	杉並重心わかば	川村敦奈	
48	全社協 キャリアパス対応 生涯研修 初任者研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	平成28年6月14日	～平成28年6月15日	2日間	生活介護課	水笠幸恵、竹山幸江
49	認知症対応型サービス事業 管理者研修	東京都社会保健医療研修センター	平成28年8月19日	～平成28年8月29日	3日間	G日本天沼	安藤聖哉
50	国際福祉機器展	東京ビックサイト	平成28年10月13日	1日間	在宅福祉課 看護課	鷹部屋宏平、鈴木真弓	

### 東京事業所 施設内研修会 (内部研修)

No.	研修名	講師 / 担当者	日付	出席者
1	「平成28年度事業計画について」 「新入職員・新任役職者などの紹介」	担当: 施設長・課長会	4月21日	55
2	「職員のメンタルヘルス・リスクマネジメント」	講師: 矢口春江、鈴木さやか	5月19日	49
3	「平成27年度事業報告・決算報告」 「わたし達の理念 にやりほっとで」	担当: 施設長・各課長 講師: 理事長 東海林 正樹	6月16日	51
4	「接遇について」	担当: 運営委員会	7月21日	37
5	「認知症勉強会」～ユマニチュード研修報告～ 「食中毒について」	担当: 武田忠雄、鈴木さやか、 鷹野 尚子、矢口 春江	9月15日	48
6	「施設内研究発表会」	講評: 日本社会事業大学福祉学部 富永 謙太郎 氏	10月6日	58
7	「感染症について」	担当: 感染症委員会	11月17日	41
8	「高齢者虐待の防止について」 「ハンセン病資料館見学報告」	講師: 富士町地域包括支援センター 佐久間 裕子 氏 担当: 人権擁護委員会	12月15日	50
9	「東久留米市の総合事業について」	担当: 一木 誠	2月16日	42
10	「高齢者施設の防災と防犯について」	担当: 防災委員会	3月16日	34
			合計	465

## 平成28年度 拡大スタッフ会 資料

	研修名	内容	開催日	担当者(講師)
第1回	平成28年度 スケジュール	今どきの若者の気質、主任、リーダーとして資質、について資料から学び、自らのリーダーシップのタイプを確認する	5月4日	我謝施設長、鷹部屋センター長 武田看護課長、清水事務長
第2回	EPAの取り組みについて	平成29年度からスタートするEPAの外国人介護労働者の受け入れについて情報提供を行った	8月4日	鷹部屋センター長
第3回	シャロームの現状と課題	特養部門と在宅部門に分かれてディスカッションを行い、現状の問題点と課題について意見を出し合った	9月7日	我謝施設長、鷹部屋センター長 武田看護課長
第4回	感染症について	感染症シーズンの到来を前に、基礎知識と予防策について学んだ	11月2日	武田看護師長
第5回	シャロームの現状と課題	特養部門は、9月7日に実施した「現状と課題」を基に具体的な課題について検討を行い、在宅部門では「総合事業」について情報共有をおこなった	12月7日	我謝施設長、鷹部屋センター長 清水事務長
第6回	シャロームの現状と課題	12月の拡大スタッフ会で出された問題と課題について、現状を確認し、具体的な対策や計画について話し合った。	2月1日	我謝施設長、鷹部屋センター長 清水事務長
第7回	高齢者虐待防止に向けた勉強会	東京都福祉保健財団の資料と「自己チェックリスト」を用いて、日頃の何気ない対応が虐待となっていないかを改めて学んだ	3月1日	我謝施設長

社会福祉法人三育ライフ

「平成28年度 事業報告」

< 東京事業所 >

平成29年5月31日発行

発行責任者 我謝 悟

社会福祉法人三育ライフ 法人本部

〒203-0023 東京都東久留米市南沢 5-18-36

TEL: 042-467-1561 FAX: 042-467-3040

<http://www.shalom-tokyo.net>

Email: [saniku@shalom.or.jp](mailto:saniku@shalom.or.jp)